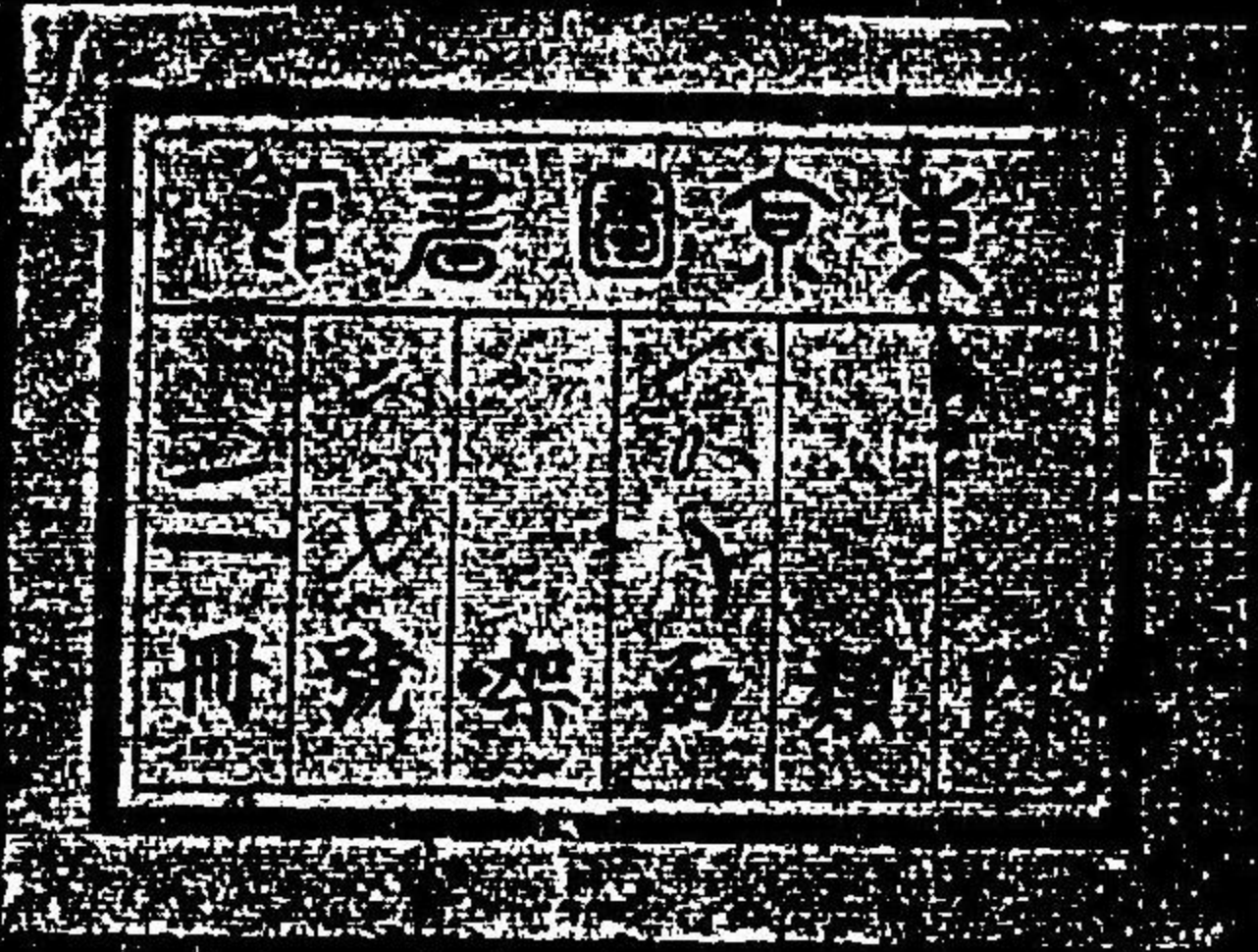


108
27

吉備叢書
第貳卷

吉備國史



吉備國史解題

一此の書の解題を記するに當り先づ此の書の著者たる小早川氏を紹介せざるべからず氏は備中足守の藩士なり本姓は吉田父を源五兵衛方行と云ふ氏は其の二男なり出て、土肥氏を繼ぎ因りて其姓を冒す幼名を久米之亟と稱し後太平

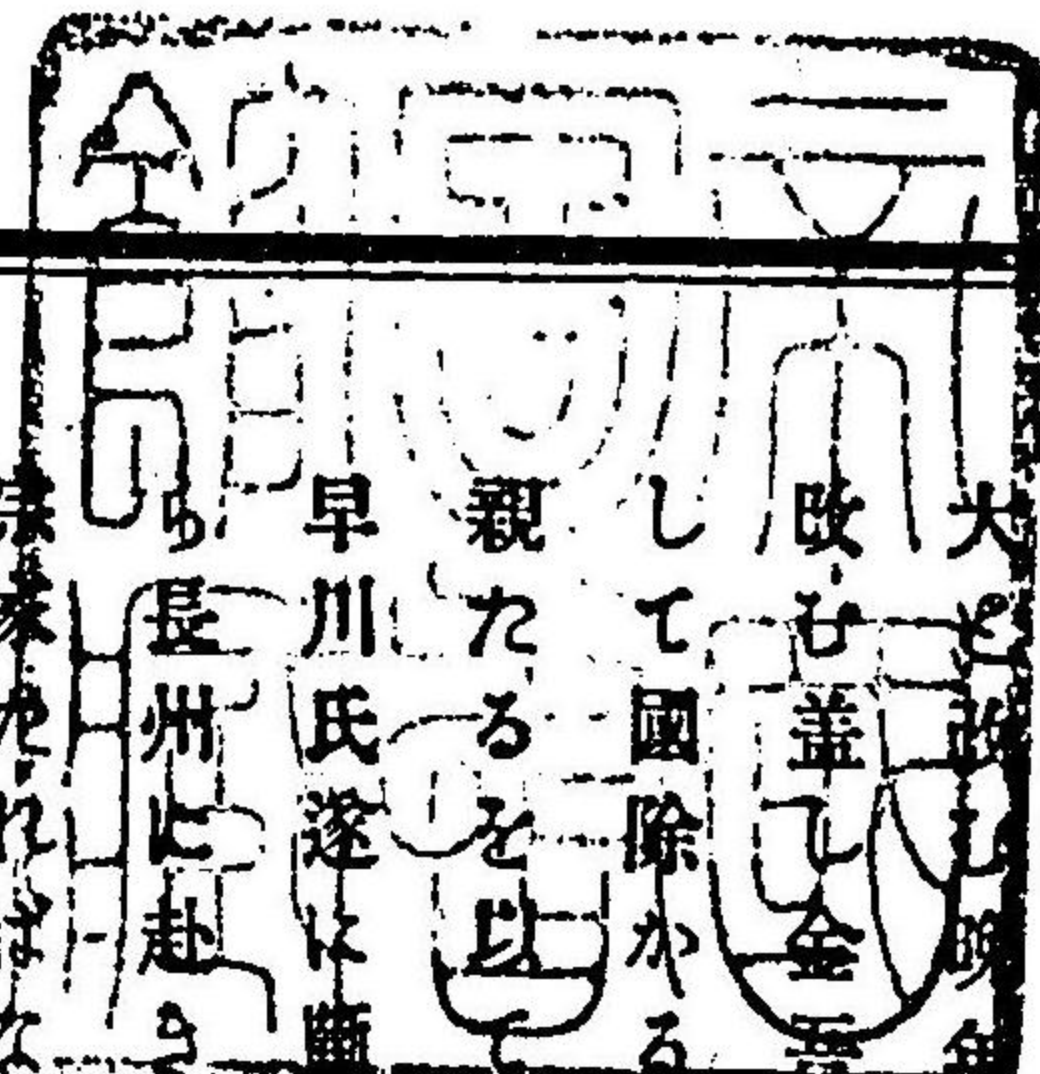
大と稱し其の單人と稱す天柱は其の號なり後更に小早川氏を冒し名を秀雄と改む蓋し金秀秋の偏諱を取るなり是より先き慶長の昔小早川秀秋の嗣なく

して國除かる、や時に其の孽子に某(名闕)なるものあり足守侯木下氏は其の姻親たるを以て迎へてこれを養ふ然るに某も亦幾ならずして天死するに及び小

早川氏遂に絶絶したりき氏因りて其の姓を冒し窮にこれを復興せんと謀り自ら長州に赴き毛利侯に説きて大に謀るところありき蓋し毛利侯は小早川氏の

縁家たればなり毛利侯乃ち使節を足守に派して議する所ありしかは木下侯大に驚き徒に事端を構へて幕府の忌諱に觸る、ことを恐る、や懇にこれを謝絶

して其の事遂に止むるに至れり秀雄其の志の成らざるを愠り是より漸く不平なり且天資卓犖にして毫も權貴を避けず是を以て父兄其の遂に家累を生せんことを恐れ勤めて祿を辭せしむ是より獨立特行世事を度外に放棄して敢て關り



知らざるもの、如し氏壯時徂徠の學を修め又能く史傳を好み諸家の系譜を精
す兼て書を能くし又宇佐美流の兵學に長じ自ら稱して太平軍師と云ふ而して
其の徒を集めて兵學を講ずるや砂を盪に盛りて山川城邑の形狀を摸し以て攻
守利害の得失を辨す聞　もの悦服す常に能く飢寒に堪え屢人に語りて曰はく
夫れ士苟くも武を以て君に仕ふるもの一朝事に兵馬に従ふあらは豈飽食逸居
を欲するも得べけんや余が力めて飢寒に堪ゆるものはこれを平生に習養する
のみと是れ當に陶侃か百甓を運ぶの類にして其の心を用ゆるの深さを見るべ
し國老某失政あり秀雄これを開きて諷諫せんとし其の非行を指摘し特に染工
に命じてこれを衣服に染めしめ而して悠々市井を濶歩して毫も憚るところな
し以て其の權貴に阿らざるの一端を見るべし屢諸州を歴遊して舊趾遺跡を探
り古瓦遺物を蒐集し古今の盛衰を鑑みて自ら娛む嘗て事により家を轉ず隣保
相集りて其の勞を助く清貧洗ふが如く一物の以て運ぶべきものなし唯長筒三
個あり重數十斤諸人怪みてこれを啓けは悉く古瓦を以て充されたりと以て好
古の癖深さを知るべし嘗て人あり氏の家を過さる時正に午時氏乃ち殘油を行
燈に探りて用ひて淮南を煎り以て食を薦む灰燼点々これに混入して殆ど食ふ

に堪へず客因りて躊躇す氏笑つて曰はく余豈人を燒するの羊叔子ならんや若
し果して害ありとせば雷に子の死するのみならず余も亦死して以て冥界に従
ふへし豈亦可ならずやと其の磊落にして物に拘らざる以て知るべきなり晩年
倉敷なる素封林氏の家を寄食し心を風土地理の研究に潜む當時林氏書を講く
を業とす古今の群籍大率網羅して其家にあり而して氏か該博なる學識を濫溢
せるは全く林氏の賜と云ふへし而して林氏が能く此の磊落粗放なる窮措大を
容れて其の家に寄食せしめたるものは思ふに雷に氏が好學の志厚さを憐れみ
しのみならず當に以て他日の大成を期するところありしなるへし氏の林氏の
家にあるや晝は山野を跋渉して舊趾遺書を探くり或は古老を歴訪して古文遺
書を求め夜は孤燈を掲げて群籍を集覽し營々として毫も倦む所なし時とし
て神社佛宇の公然見るを得へからざるあるときは窈に夜に乗して穴隙を鑽り
以て其蘊秘を探りしと云ふ而して其の探究の結果は遂に集まりて此の一大書
冊をなす吉備國史即是なり惜ひ哉未だ稿を脱するに及ばず中道にして歿す時
に嘉永八年正月三日なり年を享くる五十有二足守修福寺に葬る諡して平秀院
軍巧聞覺居士といふ氏生前一囊を持して常に左右を離さず死後遺族のこれを

啓を檢すれば白銀若干のりと蓋吉備國史出版の費に充てんかためなるへし然るに氏歿して遺族其の志を繼かず氏か數年の熱血を瀝きたる吉備國史も空しく篋底に鎖されて人のこれを知るものなかりしが機運一たび臻り今やこれを剞劂に附して以て不朽に傳ふるを得るに至れば氏亦以て瞑すべきなり唯恐る吾輩後進學淺く識乏しく妄りにこれに雌黃を加へて大に氏の素志に背くことあらんを余や本鐸を取り職に縣發に従ふこと茲に年あり頗る氏の遺教に頼ること多し因りて其の事跡を詳にしこれを世に紹介せんと欲するや久しきも未だ其の機を得ず會々事を以て足守に赴き氏の支族に係る吉田臺之助君に面し頗る其の事蹟を詳にすることを得たり今や此の書の解題を下すに當り其の畧傳を記してこれを讀者に告ぐといふ

一此の書固は備中倉敷なる林氏の所藏に係る原本合せて二十六卷中に就て吉備國史と題するもの二十三卷拾遺と題するもの三卷孰れも未定稿にして其の卷數すら混入せざるものあり又記載の事項の如きも極めて不整頓にして往々二三ヶ所に重出することあり殊に其の引用せる事項の如きも多くは直接に本書より引用せるものならざるが故に脱落誤謬等極めて多かりしも是等は一々

本書に對照して校訂すること、せり又卷二卷三等と題するも一巻を逸せるもり是等は果して初より逸せしにや將又起稿せざるにや時としては長州に於ける小早川氏の事蹟を記載して命題の範圍より脱するあり是等は著者が小早川氏を冒せるを以て特に爲にする所ありて然るのみ然れども吉備國史として關係少なければ校訂者の獨斷によりてこれを省畧せり此の書固と吉備國史と題するも主として備中の事蹟を記載すべき心算なりしが如し然れども中道にして病歿せしより上房川上阿賀哲多の四郡は全く其の記載を關けり然れども賀陽及窪屋の二郡に至りては著者の居住せし地方なるを以て其の探檢も至りて精密を極め全卷の一半は殆んど其の記事にて充たされたり而して本書の見るべきもの全く此の部にありとす以上陳ふるか如く此の書たる全く未定稿に屬し順序定まらず文字明ならず従つて其の校正の如きも極めて困難を感せしも幸に備中の事跡に精通せる山田氏を得て容易に其の業を遂ぐるを得しは余の深く感謝する所なり希くは此の書を讀むもの長く著者の功を記すると同時に并せて校訂者の勞を没せさらんことを

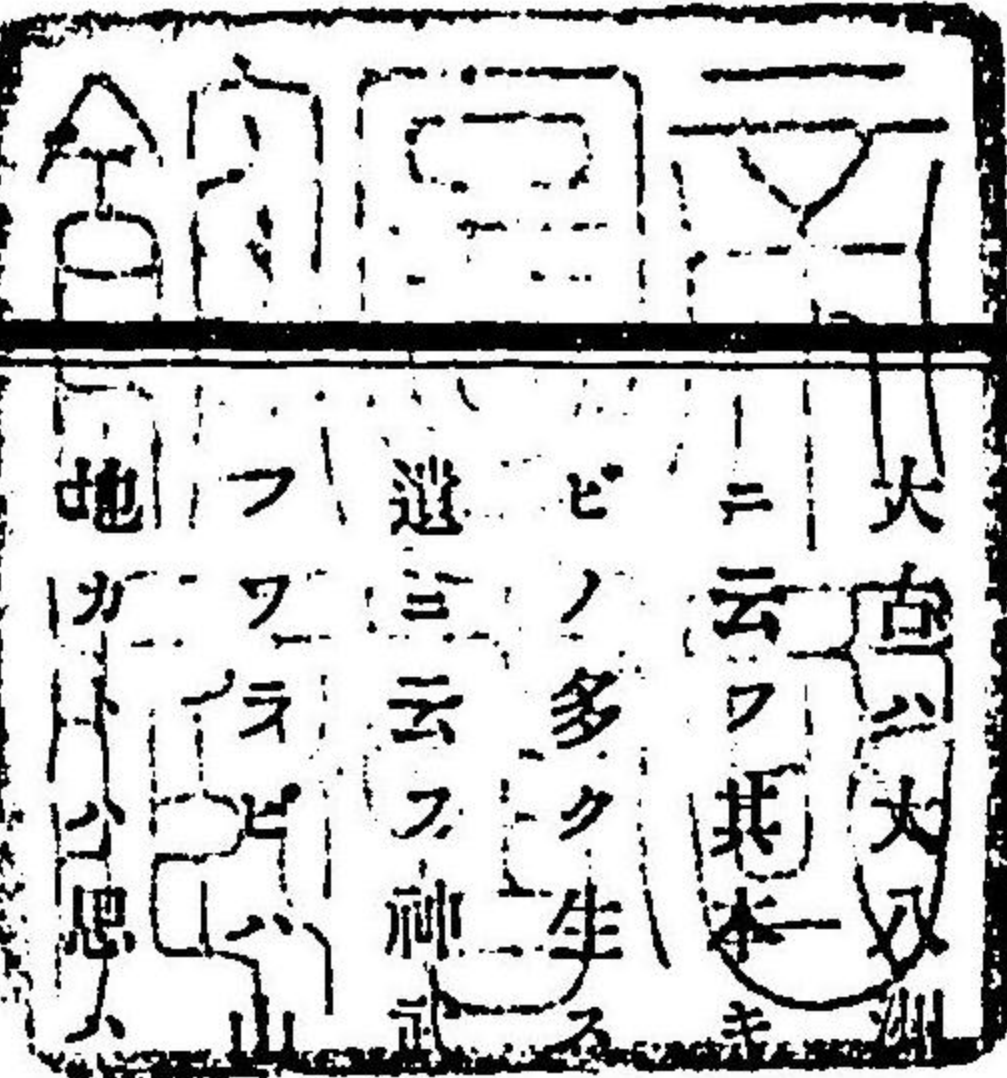
明治三十年四月

沼田頼輔識す

吉備國史卷一

吉備國

小早川秀雄撰著
沼田貞賴輔校訂
山田芳校訂



大直ハ大八洲ノ國トテ八ツノ國有リ其八ツノ一ツハ吉備ノ國ナリ吉備トハ何故
ニ云フ其本キワラビノ國ト云フ事ヲ畧シテキビト云フナリ此國ニハ黄ナルワラ
ビノ多ク生スルノ山國ナレバ吉備山トモ云フ藻蘆草ニ吉備山ヲ載セタリ古語拾
遺ニ云フ神武帝ノ時高嶋宮ニマス事七年其時ニ黄ナルワラビ六本ヲ生スルト云
フワラビハ山ニ生スル品物ナレバ上古ハ山ノミニテ田野ハ後ニ開キ發シヌル土
地カトハ思ハル

吉備中山

ワガ國ノ惣名ヲヤマトノ國ト云フハ山アトノ國ト云フ事ヲ畧シテヤマトト云フ
ナリ上古ハ山ノミ有リシヲ開キ發シテ田畑トセルノ故ニ山ノ跡ノ國ト云フナリ
トカヤ其内ノ吉備國ナレバ吉備山ト云フトカヤ即チ吉備ノ中山ノ號ハ夫ヨリ後
ニ四州ト分レテ後ニ起レリ即チ道ノ後ヘト云フハ日本書紀稚足彥天皇令諸國東

西チ縦トスルノ語ニテ可知口ト尻ノ名ハ起レル中備ノ名モ前後ノ口尻ト云フニ依テ中ノ山ト云ヒ呼フ事ハ肇マレリ國ノ形海中ノ嶋ト二ツノ別チアリ即チ吉備國ニ属スルノ子洲ト合セテ二ツナリ二ツ國有アレハ親ト子ノ字ヲ借り用非テ別レ之分國ノ後ニ中山ト云ヘリ今ノ上房郡哲多郡川上郡ト又其外ニ賀陽小山後月ノ半郡ハ古ヘハ海ナレバ半郡ヲ合セテ古ノ中山ナリ口尻チノケテ中ノ山ト云フナリ其故ニ賀陽郡ノ内ニモ中山ト云フ地ノ多キハ惣テ國ノ中山ナレバナリ中山宮内ニ有リ下足守村ノ内ニ有リ粟井村ノ内ニ有リ上土田村ノ内ニ有リ各中山ト呼ヒ來ル川上郡吹屋村ノ中山ハ真金ノ出ル舊山ナリ其外郡々ニ尤多ケレモ畧之古今集ニ

真金ふく吉備の中山帯にせる細谷河の音のさやけさ

樂章類語鈔ニ風俗謠催馬樂譜ノ卷三ニ

真金吹廿 二段 各十

未加禰不久支比乃名加也万於比爾世留奈與也良伊之奈也左以之名也於比世留波禮 二段於比爾世留保曾太爾加波乃於止乃佐也計左良伊之奈也左以之名也於止乃左也於止乃左也介左也

右催馬樂堀河ノ右大臣殿大宅右大臣殿按察使大納言藤大納言皆此人々次第ヲ所傳第三十五字有リ

廣キ中山ノ内ニテ真金ハ川上郡吹屋村ヨリ出ルノ故ニ通稱トナリテ今ハ吉備ノ枕辭ニ成リヌ然レモ此歌共ハ皆川上郡吹屋ノ村ノ歌ナリ外ノ地ニ真金ヲ吹キシ所ナシ賀陽郡宮内村モ中山ナレモ真金ヲ吹キシ事ハナクテ真金ノ舊跡ハ吹屋村ナル事昭々ト明カナリ新古今集ノ歌ニ中山ヲ詠ゼリ

常盤なる吉備の中山をしなへて千歳を松の深さ色かな

右ノ歌ニナシナヘテト云句ノ内ニ中山ハ土地廣ク一面ノ名ナル事ナルハ歌ノ句ノ中ニ合テ有ルヲ可見真金ハ其内ノ郡ノ中ニ吹屋村ヨリ出レバナリ真金何レノ頃ニ出ル事ハ止ミケン建保職人盡歌合ノ内ニ

たのめしを待つとせしまに真金吹く吉備の中山跡たえにけり

ト載タレハ建保頃ニハ出止ミヌランカシ吹屋村ハ古ヘハ英賀郡ノ内ナルヲ今ハ川上郡ニ屬シタリ英賀郡ナル事ハ銅ハアカト云フ金ナレハ銅ノ出ルノ郡ナレハ英賀ノ郡ト呼ブナリ帶セルトハ中山ヲキリト廻レルノ事ナリ又大同年間ニ真金ヲ吹キシ跡モ殘リテ有レバ吹屋村ノ歌ナリ委シクハ川上郡吹屋村ノ條ニ載セ

テ爰ニハ畧レ之宮内ノ中山ノ事ヲ平家物語ニ庭瀬郷吉備ノ中山ト載セタリ廣キ地ノ中山ノユエニ庭瀬郷トコトハリテ出タセルヲ見レバ眞金ヲ吹キシ地ト吹カメ處ノ地ノ中山モ有リヌラン眞金トハマコト金ト云フ事ナリ金ハ銅ヲ製シテ吹キ分ケテ取ルノ金ナレバ金ノキツスイナレバ眞金ト云フ然ルヲ加茂眞淵等眞金ハ鉄ナリト云フハ眞ノ字ヲ解サヌ人ハ眞金ハ鉄カト思フメシ眞ノ字ヲ意ノ無キ字ニシテ只ニ金ノ字ヲ用非テ云フノ説ナリ庭訓往來ノ俗書ニ沈ンデノ見認レル事甚シ悉ク眞字ニ誠ノ意ヲ合マセルハ猶眞弓等ノ名有ルカ如シ

吉備ノ子洲

吉備ノ、字有ルコトハ吉備ノ親國ニ對シテ呼テ其内ノ子洲ト云ナリ皆廣キ吉備國ノ内ノ子洲ナレハ也日本書紀云伊弉諾伊弉册尊立於天浮橋上共計曰底下豈無國歟廼以天之瓊矛指下而探之獲滄溟其矛鋒滴瀝之潮凝成一島名之磯取盧盧島二神於是降居彼洲因欲共爲夫婦產出洲國云々 中畧 先以淡路洲爲胞廼生大日本豐秋津洲次生伊豫二名洲次生筑紫洲次生生伎岐洲與佐度洲次生越洲次生大洲次生吉備子洲ト有リ大古ハ海ナル事今ハ地方トナレバ二ノ卷ノ古圖ヲ以テ考ヘ知ルヘキナリ今ノ窪屋郡淺口郡小田郡ノ方ノ内海ハ大古ノ航路ナレバ今ノ長良

ヨリ西ヘノ山ハ昔シハ嶋ナリ秋ノチザメニ吉備小島ハ備中ト出デタリ藻蘆草ニ云フ

大和路の吉備の子洲を過ぎ行かは筑紫の子洲をもはゆるかも

外海風波ノ時ハ内海ヲ通船渡海スル事諸書ニ見エタリ慈覺大師宮内ノ沖合ニテ難風ニアヒシ事有リ山南ハ近世迄モ嶋ナルヲ二ノ卷ニ考ヘ可合夫木集ニ曰ク

行く末の心つくしに大和路の吉備の子洲に霞こめたり

右古歌其外八雲御抄ニモ吉備子洲ハ備中ナリト出テタリ此國ニ古來ノ傳説ニ大古ハ海ニテ嶋ノ多キ事ノ残リタル故ニ諸書ニ出ツ古歌ニ載セテ備中ニ吉備子嶋ノ名ハノコレリ

分國解

古事記云大倭根子國玖琉命者治天下也大吉備津日子命與若建吉備津日子命二柱相副而於針間氷河之前居忌菟而針間爲道口蓋云忌菟ノ中ニ國堺タルノ印ヲ入レテ埋メサセ給フナランカ吉備津日子命ノ御時世ニ今ノ備前ハ吉備ノ道口ノ國ト定メラル、然レバ道ノ後ノ國モ定マル事ハ不言モ可知口ノ定マレバ尻モ定マルノ道理ナレバナリ日本書紀ニ稚足彥天皇成務東西ニ因テ日ノ縦トスト有レバ口

尻ノ事其徴ナリ鬼城社ノ古記ヲ延長元年ニ改メ正セシ物ニ云ク六十六ヶ國ニ分ニ
 備之國三分三此前中後ノ子孫相續ノ事ハ崇ハ前州ノ如シト有リテ後州ノ事ヲ不
 レ言ルハ古事記ノ文ト等シ可知吉備津彦命ノ御世ニ吉備ノ道ノ口ヲ定メテ御姉宮
 百襲媛命ニ其國ヲ奉ラル御妹宮實ハ御稚屋媛ニ吉備ノ道ノ後國ヲ奉ラル中國ハ
 彦命自ラ領シ給フ中子洲ヲ稚武彦命ニ奉ラル其餘ノ子洲彦狹嶋命ニ奉ラルハ
 事緣記ニ見エタリ是故ニ前備ニハ吉備津媛大明神ノ社遺レリ後備ニモ同妹媛ノ
 社有リテ各其地ヲ宮内ト云フナリ是故ニ三備ノ境界吉備津彦命ニ肇マルナリ其
 道ノ口國ノ内ノ郡ヲ上道ノ郡ト云ヒ下道ノ郡ト分チテ西國上リノ道路ノ往還ヲ
 附ケ給ヒ拾芥抄ニ行基所圖此土形如獨鉦頭仍テ京ヨリ長門マテノ道程一千九百
 七十八里ト云フモ吉備津彦命ヲ權輿トシテ作レルカ日本書紀云稚足彦天皇五年
 秋九月令諸國以國郡立國造縣邑置稻置並賜楯矛以爲表隔山河而分國縣隨阡
 陌以定邑里因東西爲日縱ヒノヨリ以南北爲日橫ヒノヨリ山陽曰影面カクモ山陰曰背面シロモ是以百姓安
 居天下無事ト云々此レ吉備津彦命定メ給フノ跡ヲ改メ正スノ言ナリ三備ニ分ツ
 ノ語ニ非サルヲ賀陽爲徳ハ爰ニ始メテ三備ニ定マルト思フハ賀陽氏ハ餘リ佛道
 ヲ惡ミテ中昔ニ書キシ緣記ノ數通有ルヲ不知ハ誤謬甚シ社ノ僧古書ヲ取り去リ

故ニ今其書所々ニ散亂スルハ可レ惜ナリ本朝通紀云五年春二月詔分諸州之郡境
 定長吏ト有ルモ又準前文三備ノ境界不始子斯景行帝隨東夷之強暴曰村無長
 邑之首各貪封界ト云フ語モ皆吉備津彦命ヲ準繩トシテ其定メ置キ給フノ境界ヲ
 改ムルノ事ナリ續日本紀云和銅五年四月乙未割備前六郡爲美作ト云々和銅ハ
 四十三代元明天皇ノ年號ナリ吉備津彦命ノ御時代ヨリ九百八十七年ノ後ニ當レ
 リ美作トハ道ノ口ノ内ノ山ノ峻サカシキノ方角成レハ道ノサカシキヲ畧シテミマサ
 ガト云ヘリ

改高

上古ノ圖ニハ緑ノ色ソメタルノ故ニ原野ナルカト思ハル其地漸クニ開キ發セ
 ル物カトハ見ユレ且夫レ平家物語鬼界カ嶋ノ條ニ此國ハ園ト云モノモ無クト
 有レハ園ト云物有リナン延喜式載スル所ノ田令有ルモ今ハ變改セリ
 一拾芥抄云備中田萬八百八十三町ト見エタリ
 一職原抄引事大全云備中公廩各五十萬束寺社領其外入用物左公廩正稅之外也ト
 有リ慶雲三年九月廿日ノ勅書ニ曰ク段ゴトニ租稻一束五把ヲ當ツヘシト云々
 一寛永改帳ニ云フ十一郡高二十二萬七千八百九十四石

一正保改張ニ云フ高三十二万三千五百十三石一斗三升
一元祿改帳ニ云フ三十二萬四千四百五十五石六斗二升
新開發ノ地尤多ケレバ高モ漸クニ數多ニ成リ行クニ依リテ悉クハ不記レ之

國郡郷保

大古ニハ賀陽下道小田英賀哲多ノ五郡ナリ其故ニヤ日本書紀ニハ吉備中國五郡ト有リ延喜式ニ曰ク郡宇窪屋賀陽下道淺口小田後月哲多英賀以上九郡ト有リ和名類聚鈔ニハ又九郡ヲ載ス江家次第ニモ同九郡ヲ載セタリ拾芥抄ニハ十一郡ヲ載ス川上上房ノ二郡有リ其釋下ニ見エタリ
一賀陽郡日本書紀ニハ作「香屋」ノ字又蚊屋見エタリ三代實錄江家次第和名抄ニハ賀夜ノ字ヲ書キタリ舊事本紀ニハ加夜ト見ユ讀ム人賀陽ハ香夜蚊屋賀夜カヤウトハ言ハズカヤト讀ムベキ事ゾカシ
一都宇郡ヲ三代實錄和名抄ニハ假名ヲ都宇ト書ケリツノト讀ム可キナリ
一英賀郡ヲ江家次第ニハ英賀ノ假名ニ作ル三代實錄ニハ英賀ノ假名付ケ有リ或昔ニ云フ元明帝和銅年間ニハ郷ト云事ヲ定メ給フト云々依レ之見レ之郷ノ事上古ニハ不見延長四年源順カ和名類聚鈔ヲ今爰ニ拔出ス事如レ左

備中國第百十四

都宇郡	窪屋郡	賀夜郡	下道郡	淺口郡	小田郡	後月郡	哲多郡
河面	大市	庭妹	八部	巨勢	穂北	劍代	河邊
撫河	阿智	板倉	生足	大石	八田	近似	吳妹
深井	三須	足守	刑部	暹磨	成羽	田上	船穂
釋家	美賀	大井	日羽	曾能	弟鬮	占見	小田
眞壁	阿智	多氣	秦原	穴田	川村	甲努	小田
輕部	服部	有漢	水内	湯野	小坂	魚緒	大飯
野馳	額部	野馳	野馳	野馳	野馳	野馳	野馳

英賀郡

中井

水田

皆部

刑部

丹部

林郷

吉備國史卷二

國郡涌成

小早川秀雄 撰
沼田頼輔 校訂
山田貞芳 校訂

行基肇テ吾カ日本ノ國ノ繪圖ヲ造ル其内ニ自京長門ノ濱マデ行程一千九百七十八里ト拾芥抄ニ載セタリ昔シ吉備津彦命播磨ノ氷河ノ前ニ居忌登ニ播磨爲道口コト古事記ニ載セタリ於是往還ノ有ル通リノ郡ヲ上道ノ郡ト云フ蓋上トハ東ヲ云ヒ下トハ西ヲ云ヘリ上道郡ノ名ハ今備前ニ遺レリ大古ニハ今ノ賀陽郡モ上道ノ郡ノ内ナリ今下道郡ハ備中ニ有リ其下道郡ニ堺シテハ上道ト下道ト同シ通行ノ路ナルノ故ニ郡ヲ堺シテ有リ一圓ニ吉備國ノ内ノ道路ノ郡ナリ後ニ國ヲ分チテ吉備道口吉備中ツ國吉備ノシリヘ國ト云ヒシガ後又吉備トハ餘リ長キ故ニ備字ヲ用ヒテ吉ノ字ステ、備前ト云ヒ備中ト云ヒ備後ト云フ一此ノ上道ノ郡ノ西ノ端シ足守ニカヤノ木ノ大木有リシ其地頭ノ側ノ事故地頭ノ居地ノ名ヲ取テ香屋郡ト名付ケタリ是地頭ヲ香屋ノ國造トハ今ニ呼ヒ來レリ是レ賀陽郡ノ起元ナリ

一 哲多郡トハ其國中ヨリクロ金多ク地中ヨリ堀リ出スノ故ニ此鉄ノ出ル郡ナレ
ハテツタノ郡ト呼ヒヌ

一 英賀郡トハ此ノ國ノ山中ヨリ銅ヲ堀リ出ス鉄ノ出ル郡トノ別チ安キガ爲ニア
カ郡ト云フ委シクハ別ニ吉備中山ノ條ニ論セリ

一 小田郡ト云フヲハ後ニ起ルノ事タトハ平ラカニ延ヒルノ形ナリ此國ノ西邊ト
云フ事ナリ

右五郡ハ古ヘヨリ有ルノ郡ナリ各ノ郡ニ海ヲ開キ發シ土地トスルノ故分郡モ
ナレルナリ幾タビニモナル地ノ故内海ハ悉ク新開發シテ其開發ノ主ヲ其郡ノ
内ニ社ヲ造リタル神トシタリ故ニ今小田郡ト都宇郡ニ各郡明神トテ之ヲ祭レ
リ委シクハ其郡ノ神社ニ載セテ今爰ニ不記驛モ亦二郡ノ内ニ有リテ他郡ニハ
ナシ

一分郡ハ海ヲ開キ發スルノ故其郡餘リ大キクナルニ依テノ分郡ナリ

一 賀陽郡ヨリ上房郡ヲ出シ名付ケタリ是賀陽郡河ノ上ヨリ海濱マデ餘リ細長キ
ノ故國府廳ニテ川嶋川ノ川カミノ部分ノ賀陽郡ヲ上方ト名付ケタリ後ニ世移
リ歲來テ文字ヲ誤リテ上房ノ字ニ書キ改メシ故ニ今ハ大古ノ様ノワカラヌヤ

ツニ成レリ

一下道郡トハ上道ニ對シテノ名謂ハユル古事記居忌段道ノ口トスルニ發コレリ
此郡モ下ハ海ヲ開キ發シ田地トスルノ故ニ郡ハ下ニ細長ク成ルノ故各川嶋河
ノ川ノ上ノ方ノ下道郡川ノ下ノ方ノ下道郡ト云フ様ニナルニ付國府廳所ニテ
下道郡ヲ川ノ上ト川ノ下ニテ分テ改メテ川上郡ト名付ケタリ今ノ川上郡ハ大
古ノ下道郡ナリ

一 小田郡ヨリ後月郡ヲ割リテ各公廳所ニテ改メ名付ケタリシヅキ郡トハ小田郡
ハ東西ニ細長ク新開ノ出來シノ故ニ西ヲ尻トシ東ヲ頭トスルノ理ニテレリニ
ツ、キヌル郡ト云フ事ヲ畧シテ後月郡トハ名付ケタリ

一 各五郡ヨリ次第ニ新開發ノ地ヲ公廳所ニテ名付ケテ窪屋郡ト云ヒ淺口郡ト云
ヒ都宇郡ト云ヘリ窪屋トハ海中ノ嶋ノ山中ニクボクヒクキ地ニ人民居住セル
有レハクボ山ノ郡ト云ヒシカ長キノ故ニ畧シテ窪屋郡ト云フ其海ノ開發シテ
遠淺ノ水ノ干カタノ有ルノ地ハ淺口ノ郡ト名付ケ國府ノ公廳所ヨリ舟ニ積ミ
テ京ニ上セル船着ノ地ヲハツミノセノ郡ト名ク是モ辭長キノ故ニ畧シテツノ
郡トセリ和名抄ニ都宇ノカワハキニツノコホリト書キタルヲ可視

右ノ外諸小島數多ニ有リ各其郡々ノ國史ニテ可見ナリ今爰ニハ畧之是ヨリ
山北ノ諸崎此ヲ古ヘノ呼ビ習ヒ來ル處ノモノニ大古海面ノ時ノ名ノコレル
其土地ハ如左

- 一 船越 賀陽郡ノ西
- 一 洲崎 今福崎村ト
- 一 赤濱 都宇郡ノ内
- 一 船山 窪屋郡三輪ノ内
- 一 向ヒ側 賀陽郡板倉ノ内
- 一 東山 宮内ノ南有ル名
- 一 織カ鼻 賀陽郡窪木村ノ内
- 一 七ノ鼻 下足守村ノ内
- 一 沖 西阿曾村ノ内
- 一 岩崎 新庄ノ内
- 一 船頭田 賀陽郡大井村
- 一 浦尾
- 一 港井 ナミクハヘノ名ニヤ
- 一 北浦 賀陽郡上土田
- 一 三洲 窪屋郡ノ内ノ村名
- 一 向ヒ島 今三須ト云
- 一 西山 古ヘハ中ニ水隔テ向ヒト
- 一 惣爪 日幡村大手等ノ上
- 一 杉カ鼻 都宇郡
- 一 蛙カ鼻 久米村ノ地名
- 一 尾穗崎 立田村ノ内
- 一 大崎 東阿曾村ノ内
- 一 荒船 賀陽郡ノ村名
- 一 瀬戸 同郡上足守村ノ内
- 一 瀬戸 賀陽郡下足守村ノ内

- 一 淺海 小田郡ノ村名
- 一 妙地ガ鼻 都宇郡妹尾村ノ内
- 一 茂次ガ鼻 都宇郡中田村ノ内
- 一 濱中
- 一 走出 小田郡ノ村名
- 一 通船 淺口郡ノ内
- 一 洲江 淺口郡ノ村名
- 一 鯛原 都宇郡鳥羽村ノ沖又窪屋郡倉敷村ニモ有リ
- 一 大江 小田郡ノ村名
- 一 出洲江 今出部ト書ク
- 一 佐方 寛永古帳出洲江ト有リ
- 一 關鼻 或本淺方ト有リ
- 一 小瀬戸 下道郡ノ内妹尾村ニ有リ
- 一 小瀬戸 窪屋郡有城村ノ内

右上ニ載スル處ノ圖中ノ海ノ處ニ有ル村ナレバ上古ハ大海ナル事アケテ其有
リ様ヲ示スノミ大古吉備ノ小島ヲスキ行ケハ筑紫ノ小島オモホユルカモ又夫
木集ヨス舟モ鳴ク鶯ヤ渡ルラン細谷川ノ花ノ浮ハシト有リ夫木集ノ時代ハ宮
内モ船ニテ行キセル事ヲ知ルベシ

一 川島河ノ流ノ通リハ大分ニ古ルク開發スルカ開發ノ以後ハ數年ハタ、井ヨリ
南ト東ニ分流ス東ハ井手村ノ方ヘ落チ今ノ清水村ノ方ヘ落ルトソ今惣社ニ村
アガリト書キテムラゲト云フ眞壁村ヲ眞壁部ト有リ眞上部ト云フ事カ其末赤
菰ヘ落ツル南ハ今ノ地ノ方ヘ落ル其後年曆ハ知ラザレモ東河ハ堰キ留メテ南

ヘノミ落ル様ニハナシタリ何分海ナリシ事疑モナキ事ナリ吉備津宮ノ中古ニ
 書キシ縁記ト云フ者ニ比叡山慈覺大師此宮内ノ沖合ニテ難船セシ事モ載セタリ
 又小田郡横谷洞松寺ニ有ルハ神功皇后三韓ヲ攻メ給ヒシ時此ノ吉備ノ沖合ニ
 テ帆柱ノチレシニ依リテ今ノ洞松寺ノ處ノ松ヲ切リテ帆柱ヲ造ラセラルハト
 有リ其外ニ海ナル證據ハ日本紀大泊瀬幼武天皇^雄二十三年征新羅將軍吉備尾
 代行至吉備國^{過家}畧尾代從家來會蝦夷於娑婆水門^{合戰}ト有リ娑婆今ノ完澤
 トハ下モ澤ノ畧語ナリ延長四年ニ書キ改メシ書昇龍山^中東北海廻山無底ト有
 リ又云ハク常ニ芦守山ノ守國郡ニナト書キタルガ如シ可見此頃ハ山ノ頂ノミニ
 居住セリ山ノ下ハ皆海ナル事前ノ圖ノ如キナリ岡ノ方ハ山ノミ滿チ連リ人ハ
 山ニ居レリ故ニ此國ハ山跡ノ國ト云ヒ其内ノ黄ワラビノ國ナレバ山ニ人居ル
 事必セリ古ノ大海漸ク干カタトナリテ次第々々ニ開キ發シヌルヲ今爰ニ大概
 ヲ抜キテ爰ニ示之宮内ノ昇龍山本願寺ノ僧カ退院ノ刻持チテ去リシト云フモ
 ノチ側ニ書キシ古圖一枚ヲ或人ノ寫シテ傳ヘタリ其圖ハ次ニ見エタリ海ノ干
 カタトナリシ後ハ名モ悉ク變化シテ古ヘト異ル事考ヘ知ヘシ

一眞髮部 眞壁村内
 一流レ田 同郡足守村ニ有リ

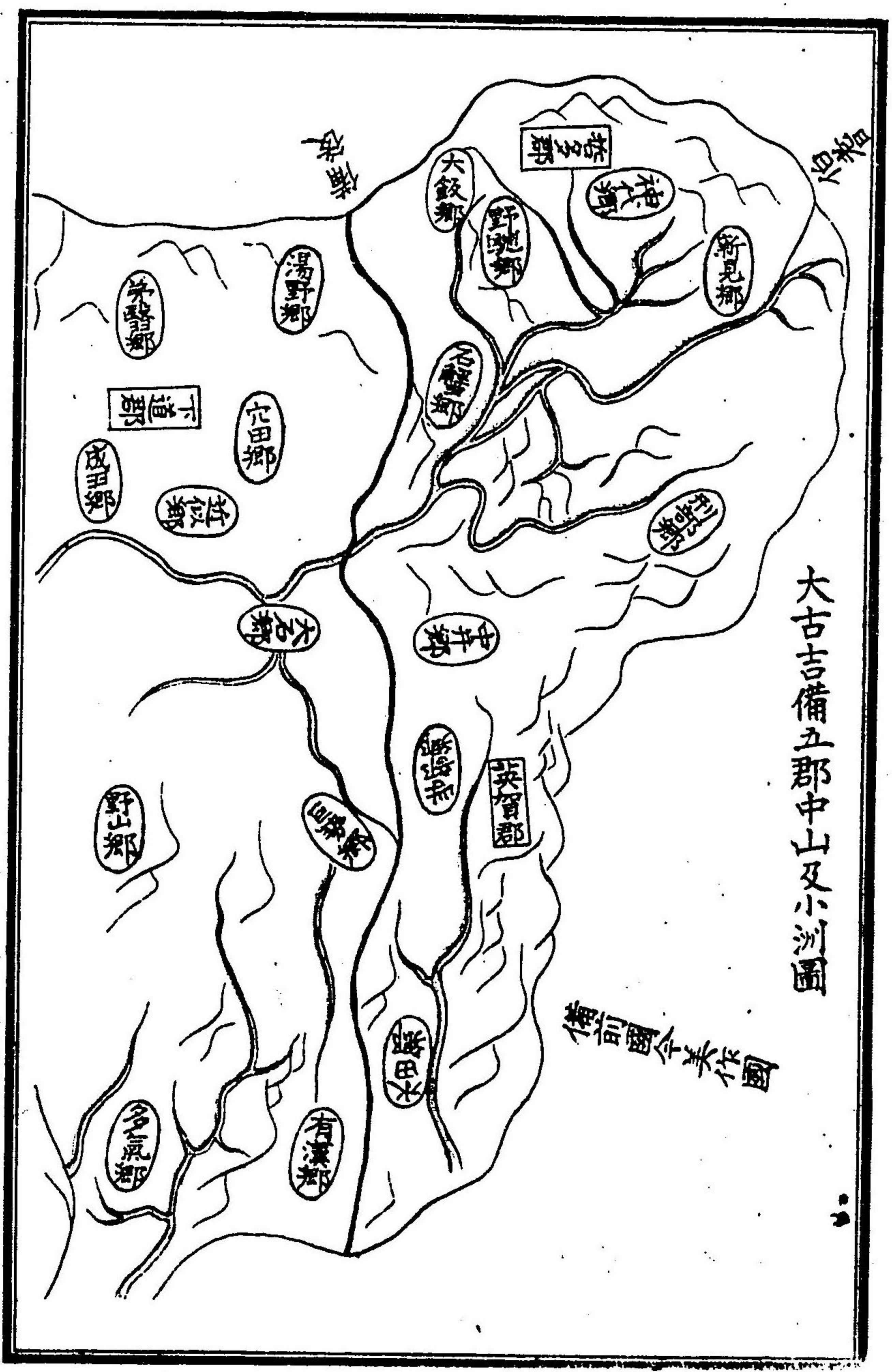
一古川新田 同郡下足守村
 一井田 賀陽郡ノ内
 一三段川内 同郡板倉村
 一川入 都宇郡ノ内
 一中川原 同郡上足守村
 一ゴウゴ田 同郡東阿曾村ノ下岡ニ有リ

其外多ク有レモ畧之大古ノ地圖ヲ見テ川ノ付キ替リモ思ヒヤルベシ
 其後ニ海漸クニ干潟トナリテ國ノ形千様ニ變リ行クノ事ハ正保四年ヨリ五十
 四年ヲ經テ元祿十四年ニハ山南ノ地方ノ様ノ變リ行ク事考ヘ可レ知今爰ニ圖ヲ
 出シテ示レ之

土地古ヘト變リテナリ行クノ様ハ此ノ繪圖ヲ以テ考ヘテ可レ知ナリ大古ノ圖ヨ
 リ以下其大概ヲ抜キ出テ其海ノ埋モリテナリ行ク大畧ヲ示スノミ備中十一郡
 今ノ郡村如レ左

一 賀陽郡 九十八村	一 上房郡 四十三村	一 下道郡 三十六村
一 川上郡 七十一村	一 小田郡 七十四村	一 後月郡 四十六村
一 都宇郡 六十村	一 淺口郡 六十村	一 窪屋郡 五十六村
一 阿賀郡 五十村	一 哲多郡 六十村	

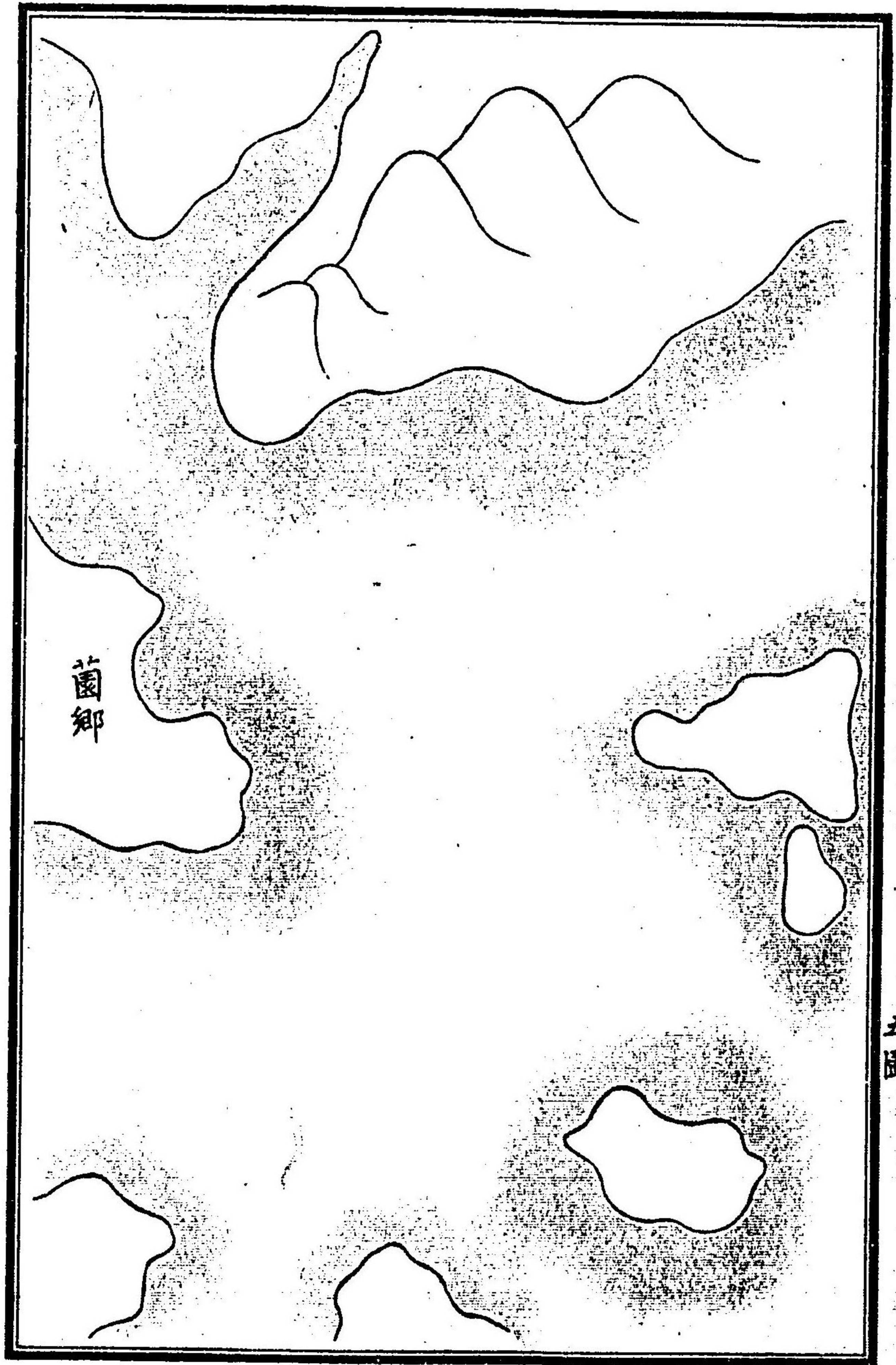
惣村六百五十四村天保九年改ムル所ノ事ノ如シ



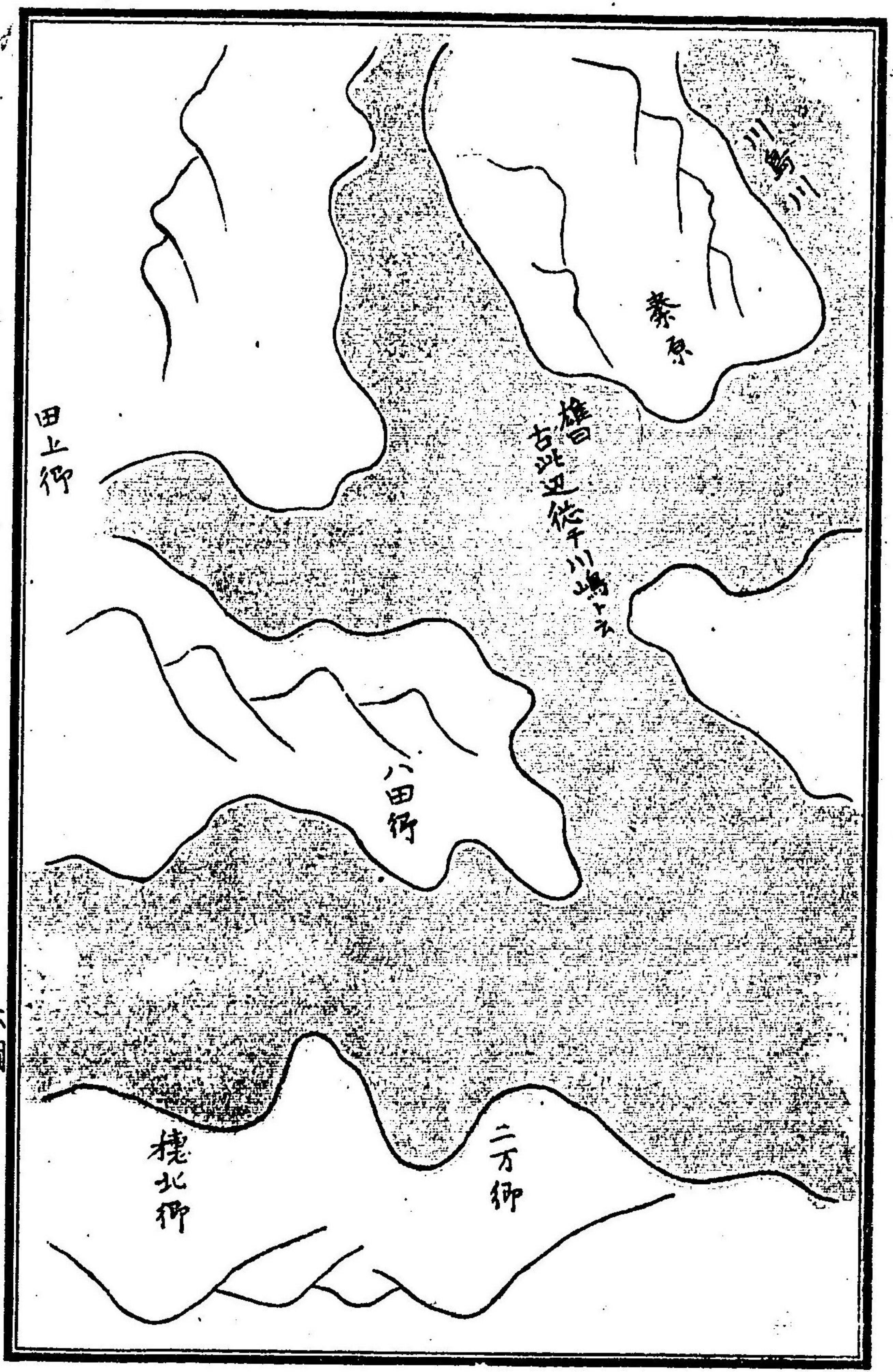
大古吉備五郡中山及小川圖

備前國今美作圖

全圖

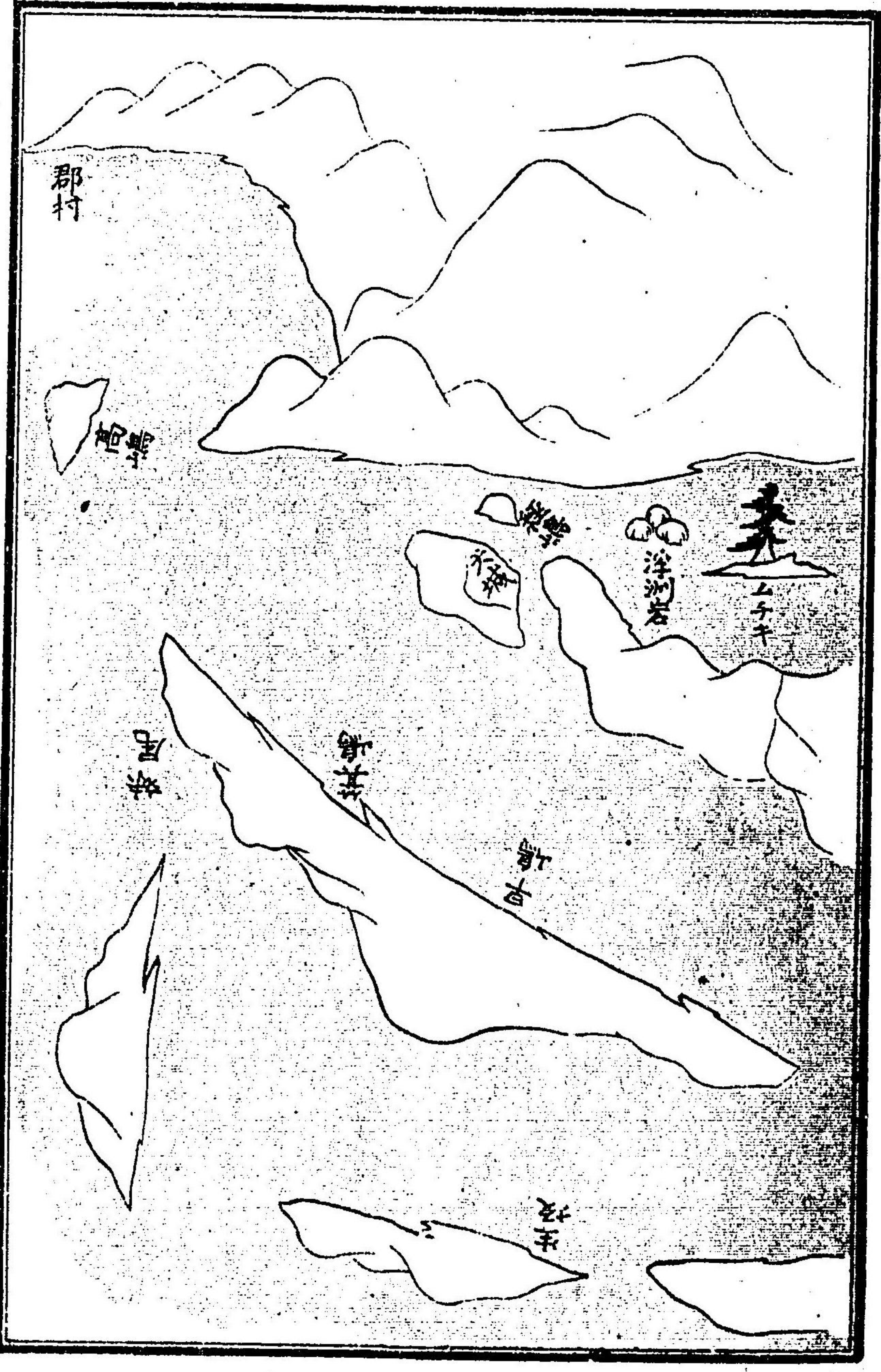
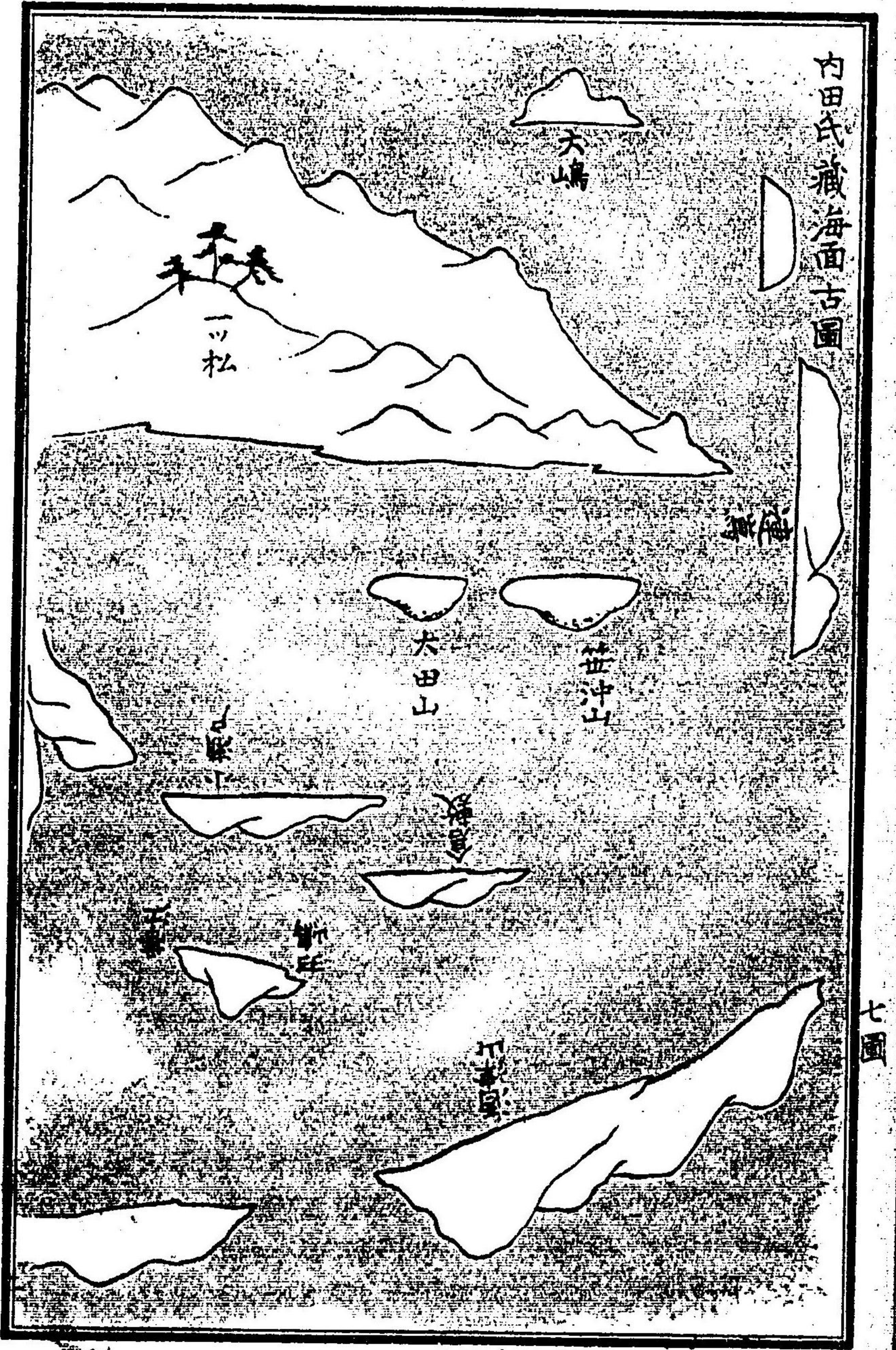


五圖

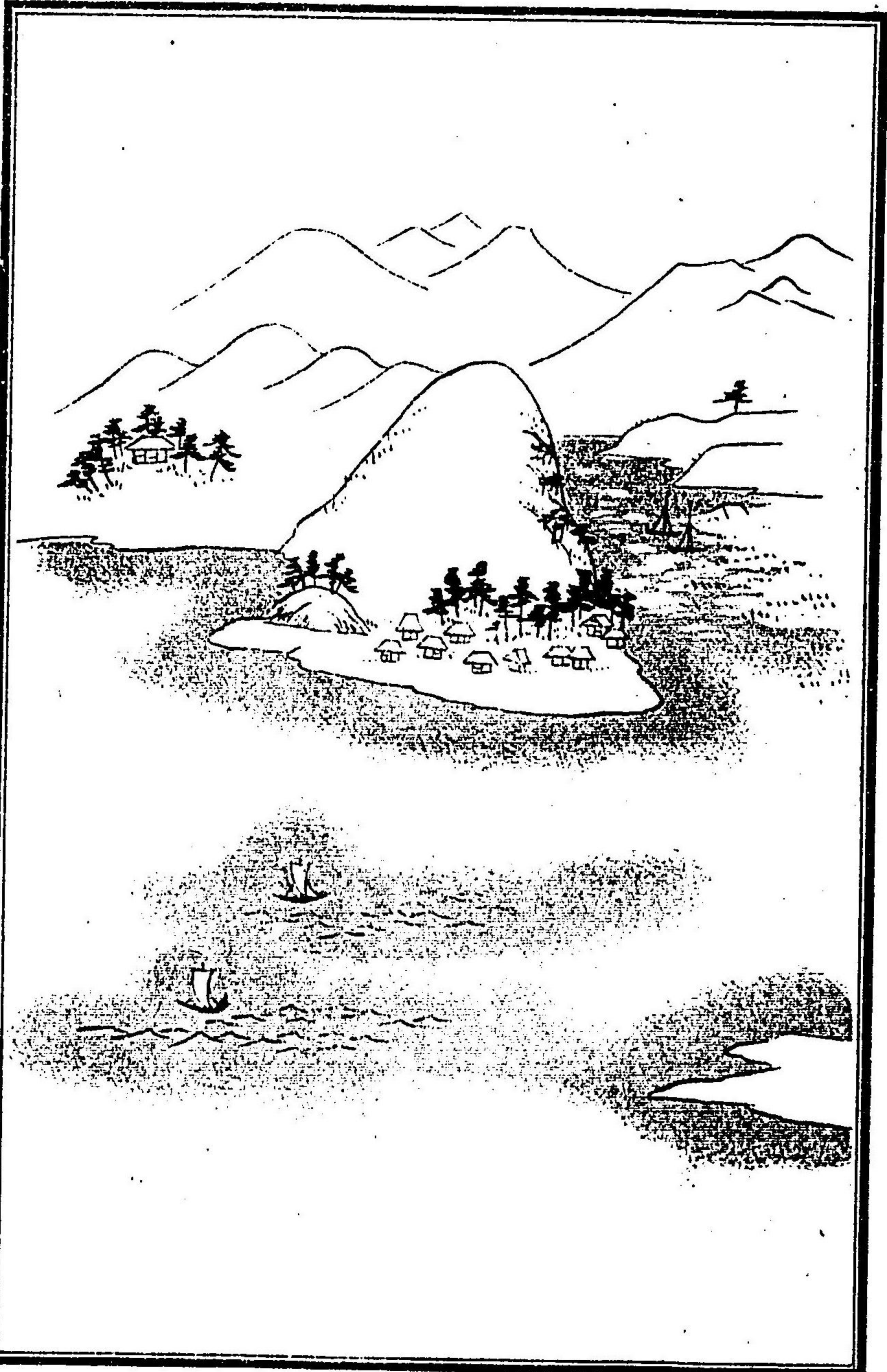


六圖

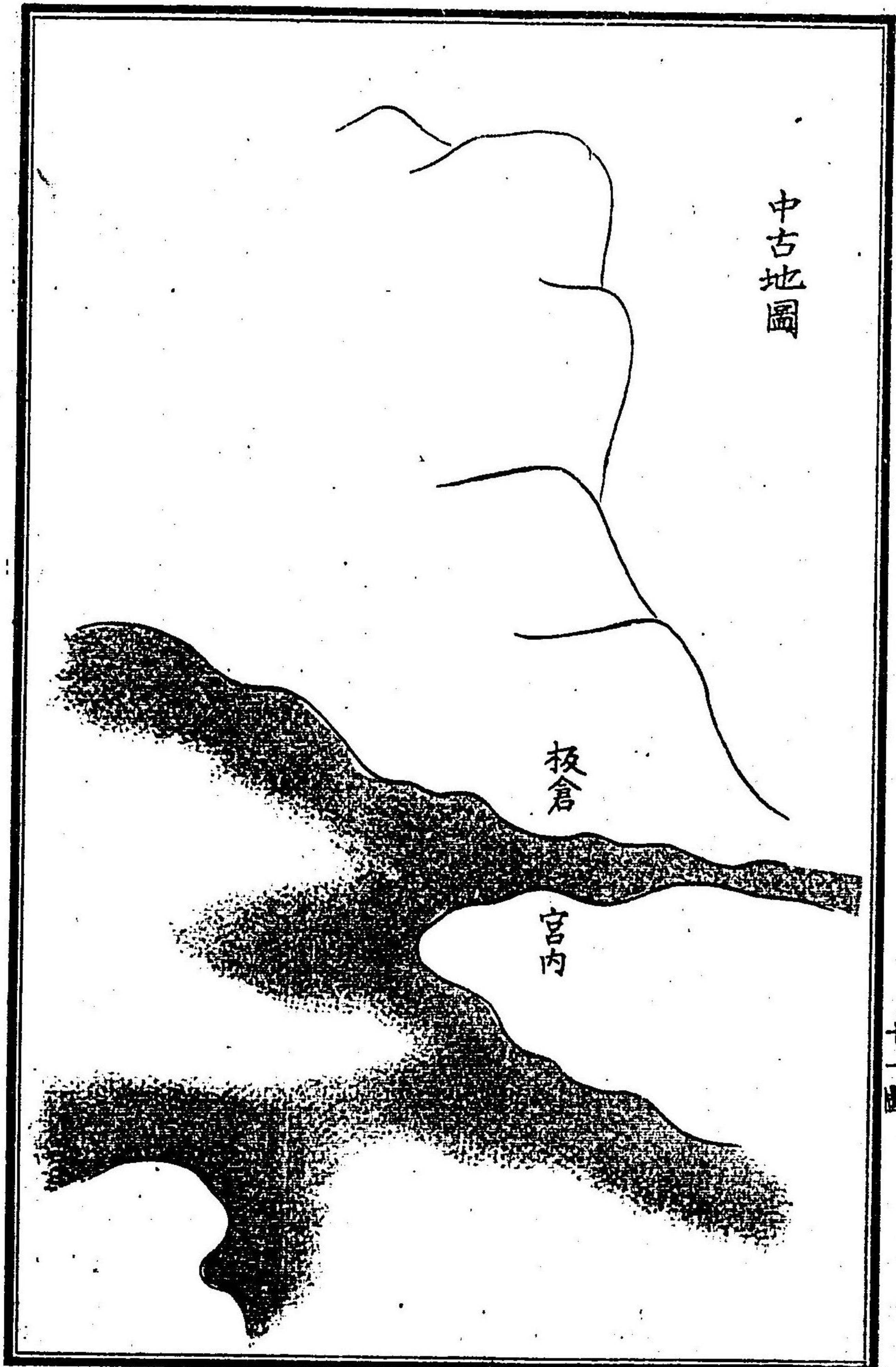
内田氏藏海面古圖



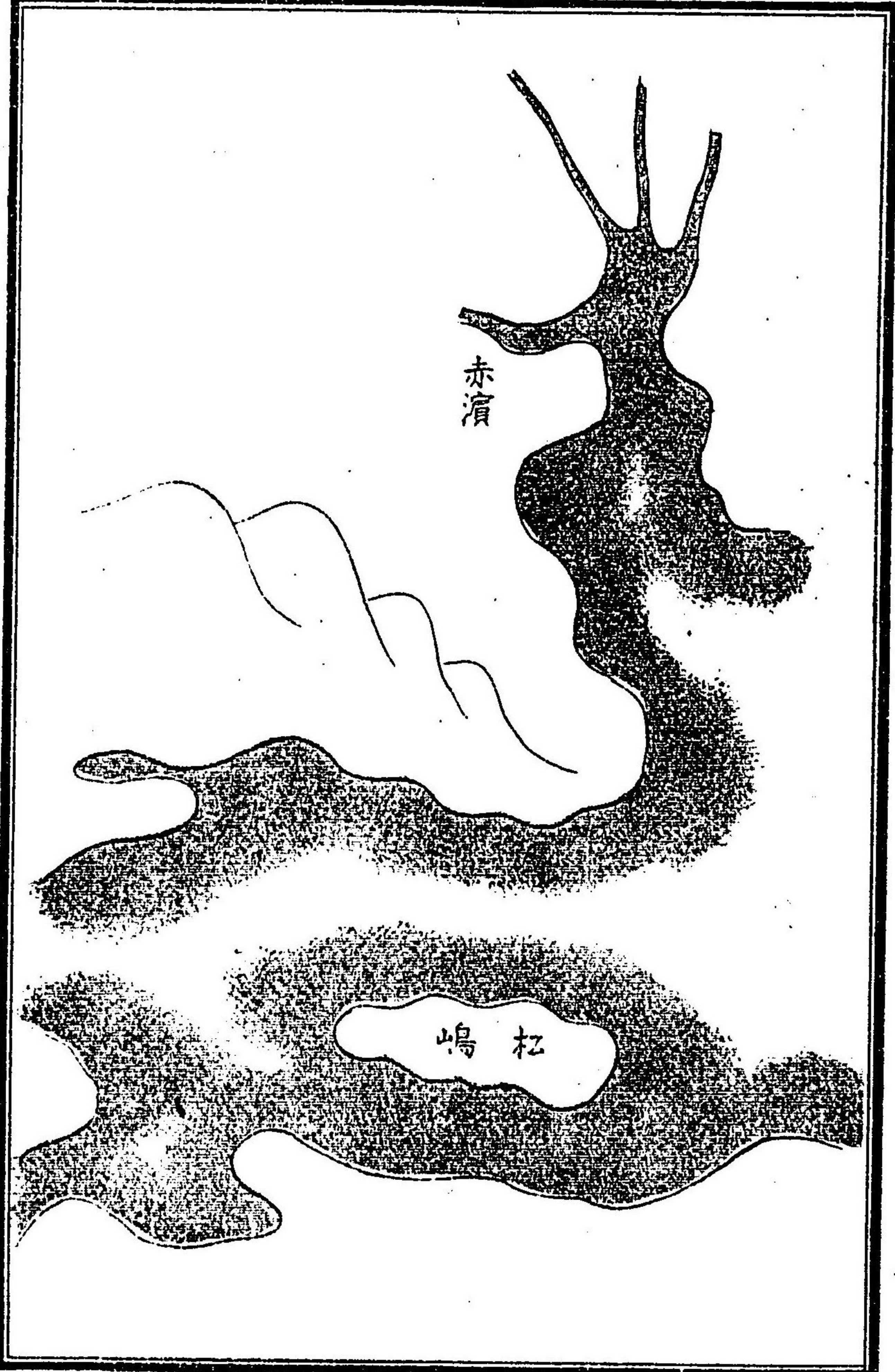
西岡山藏津屋郡阿智郷海面古圖

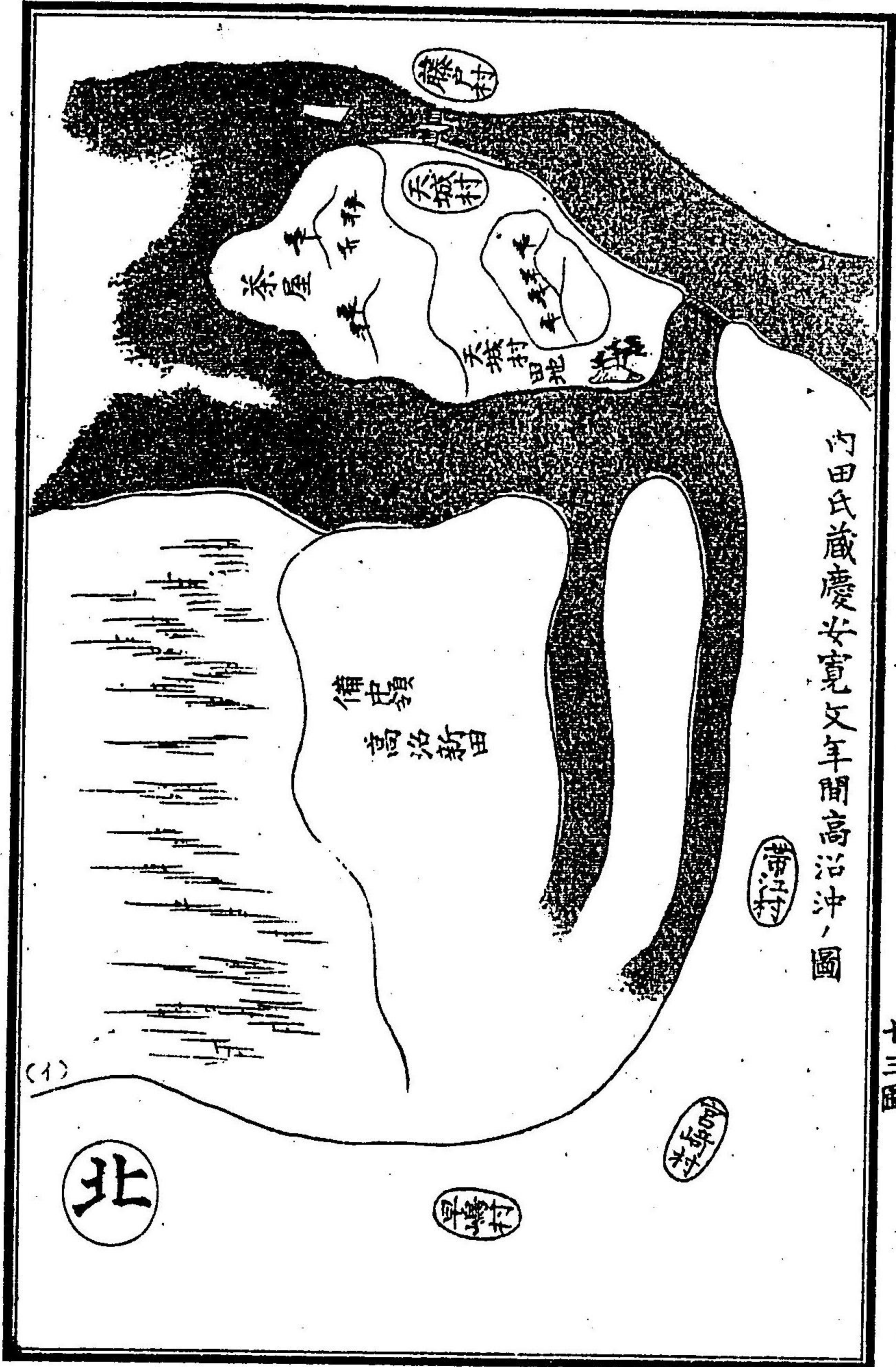


中古地圖



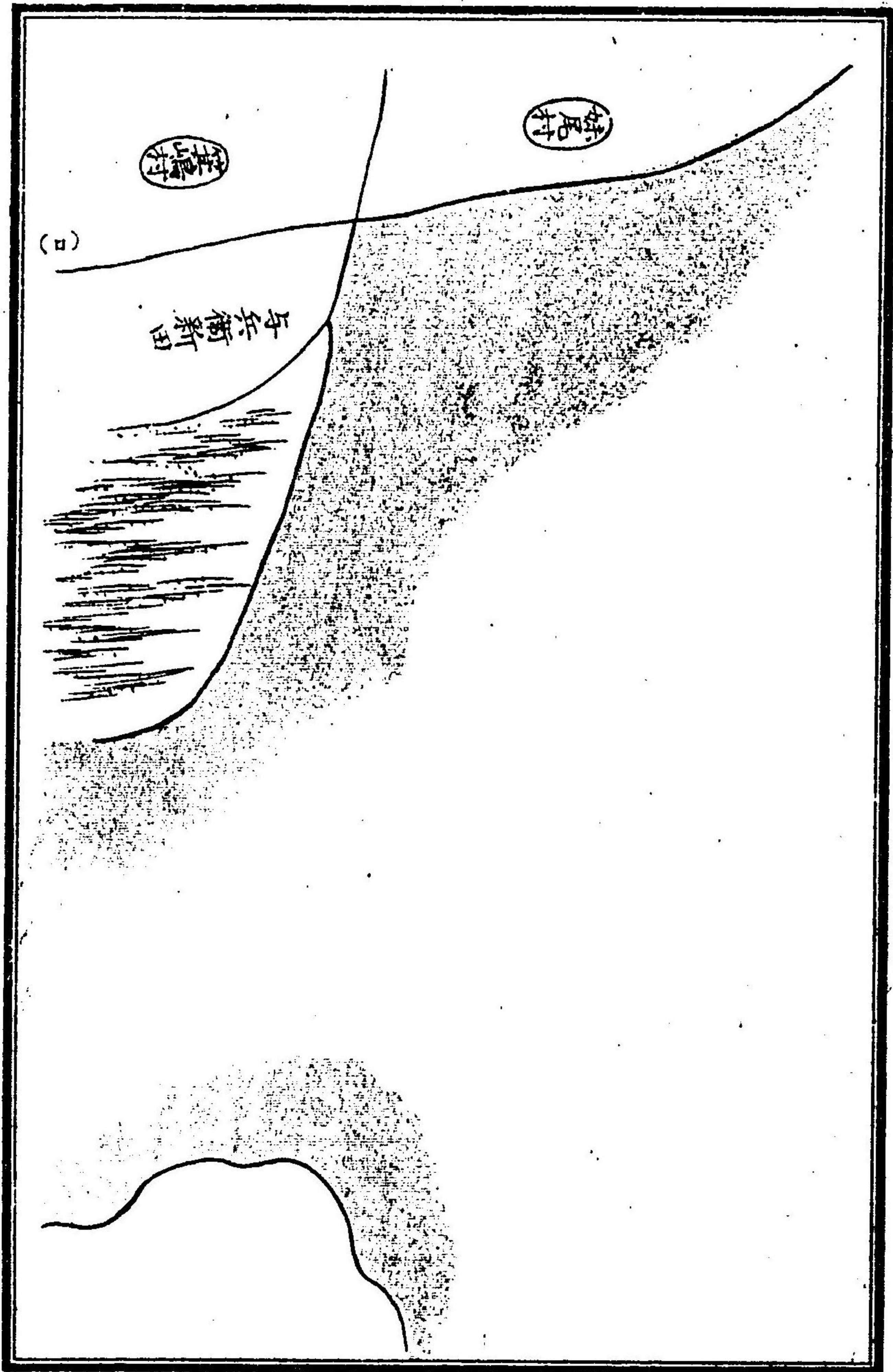
赤濱



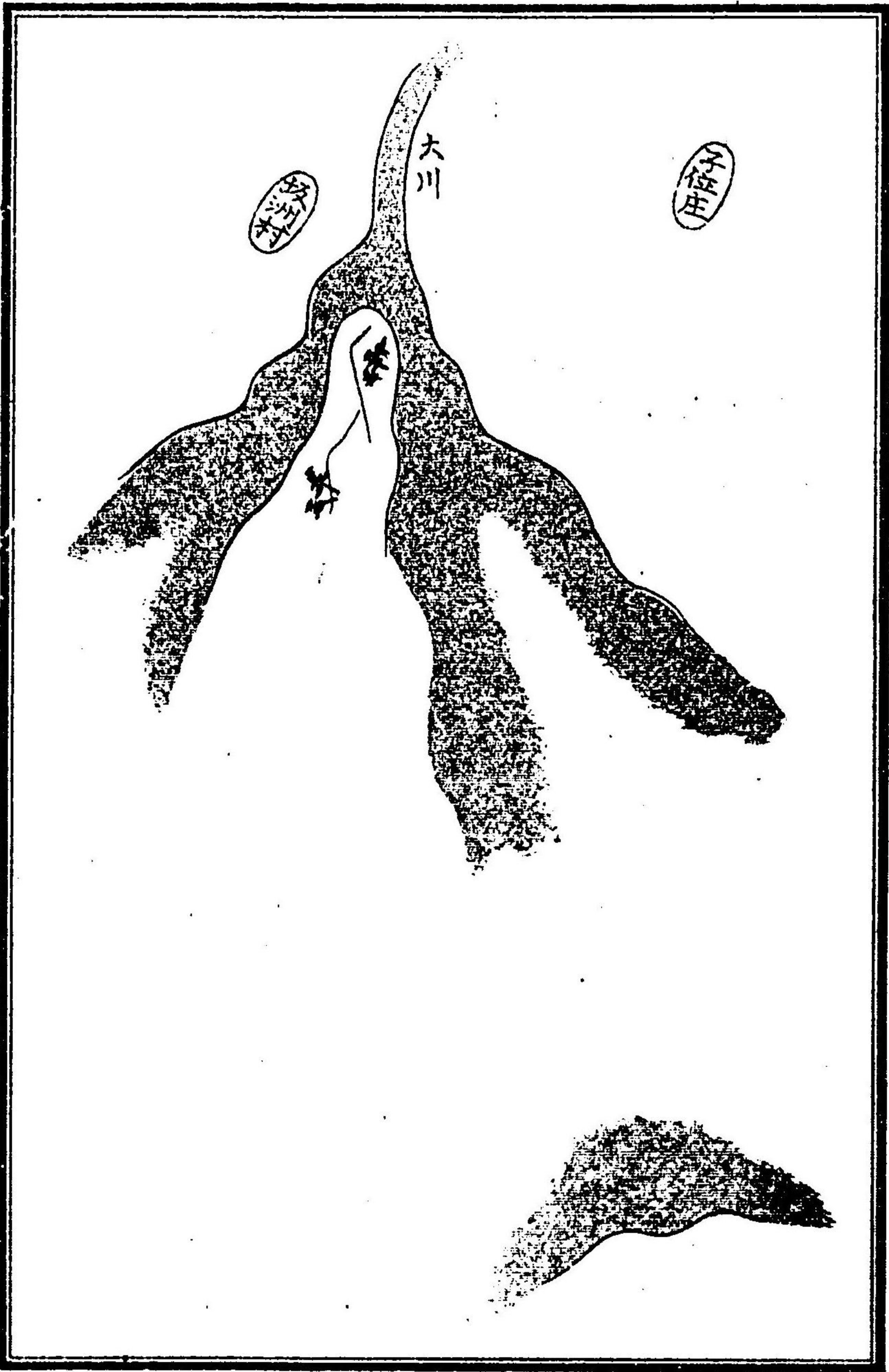


内田氏蔵慶安寛文年間高沼沖ノ圖

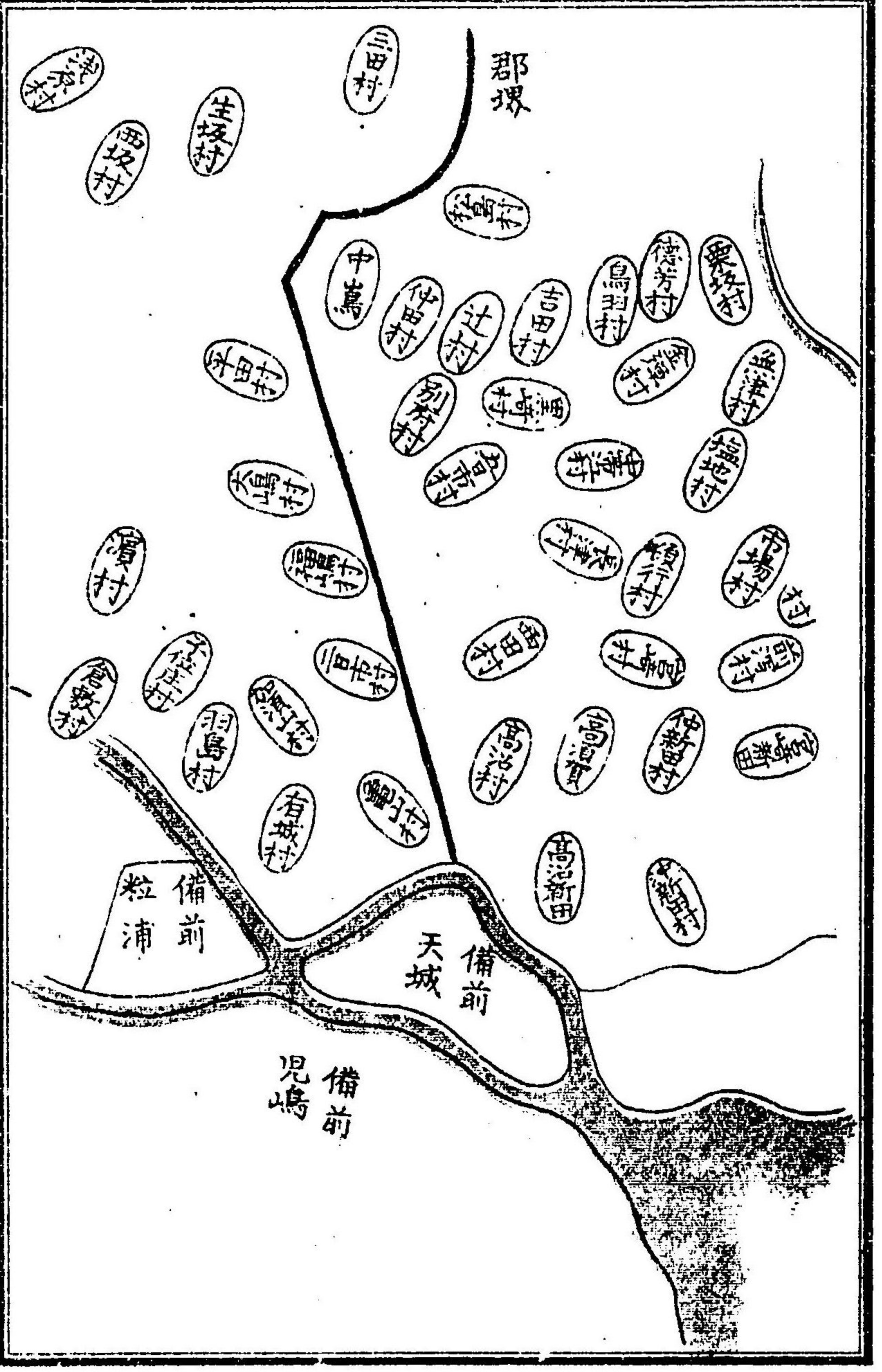
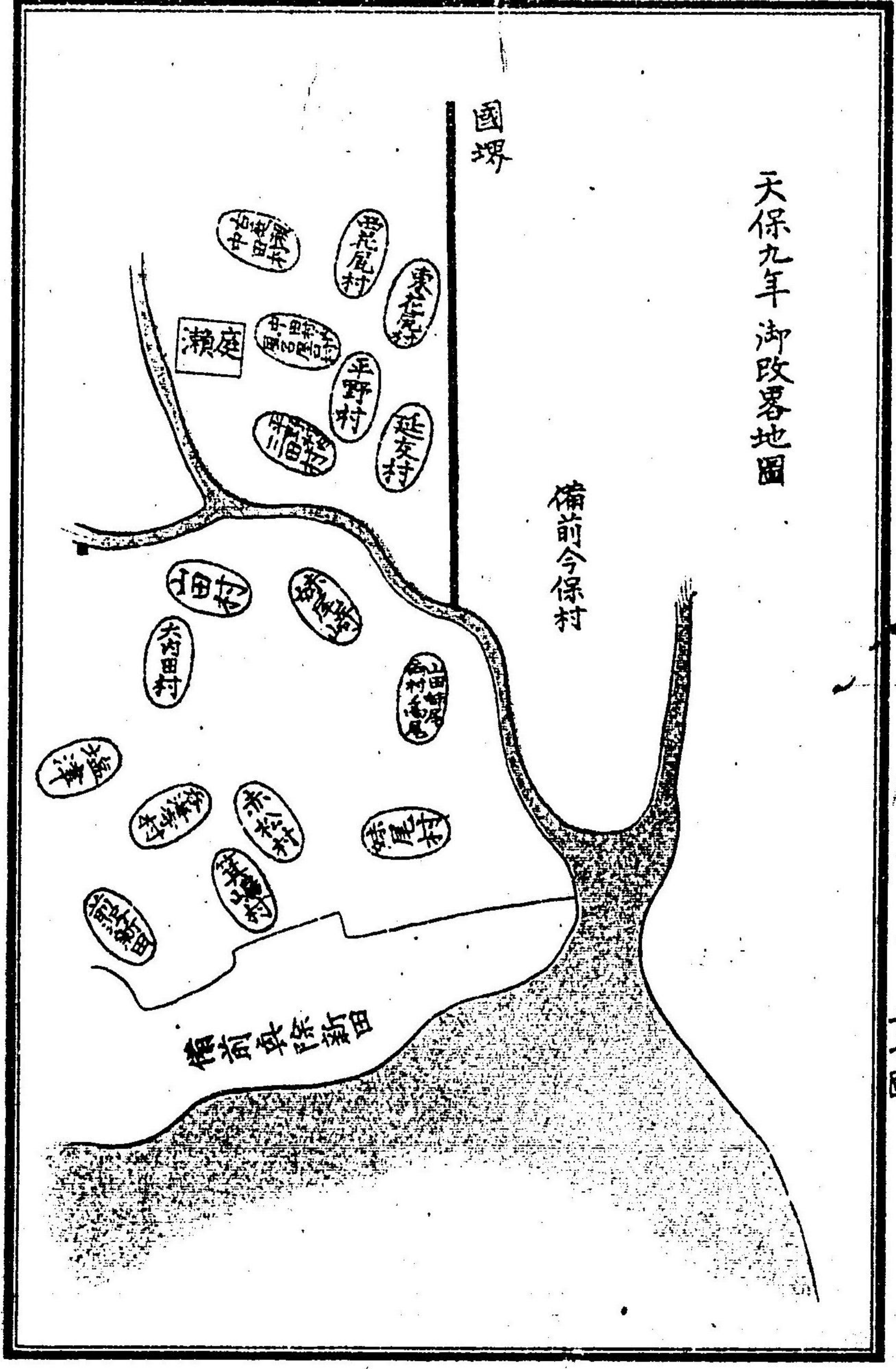
十四圖は印刷上下顛倒せしか故に十三圖中
 (イ)より十四圖中(ロ)と相接續すと知るすし



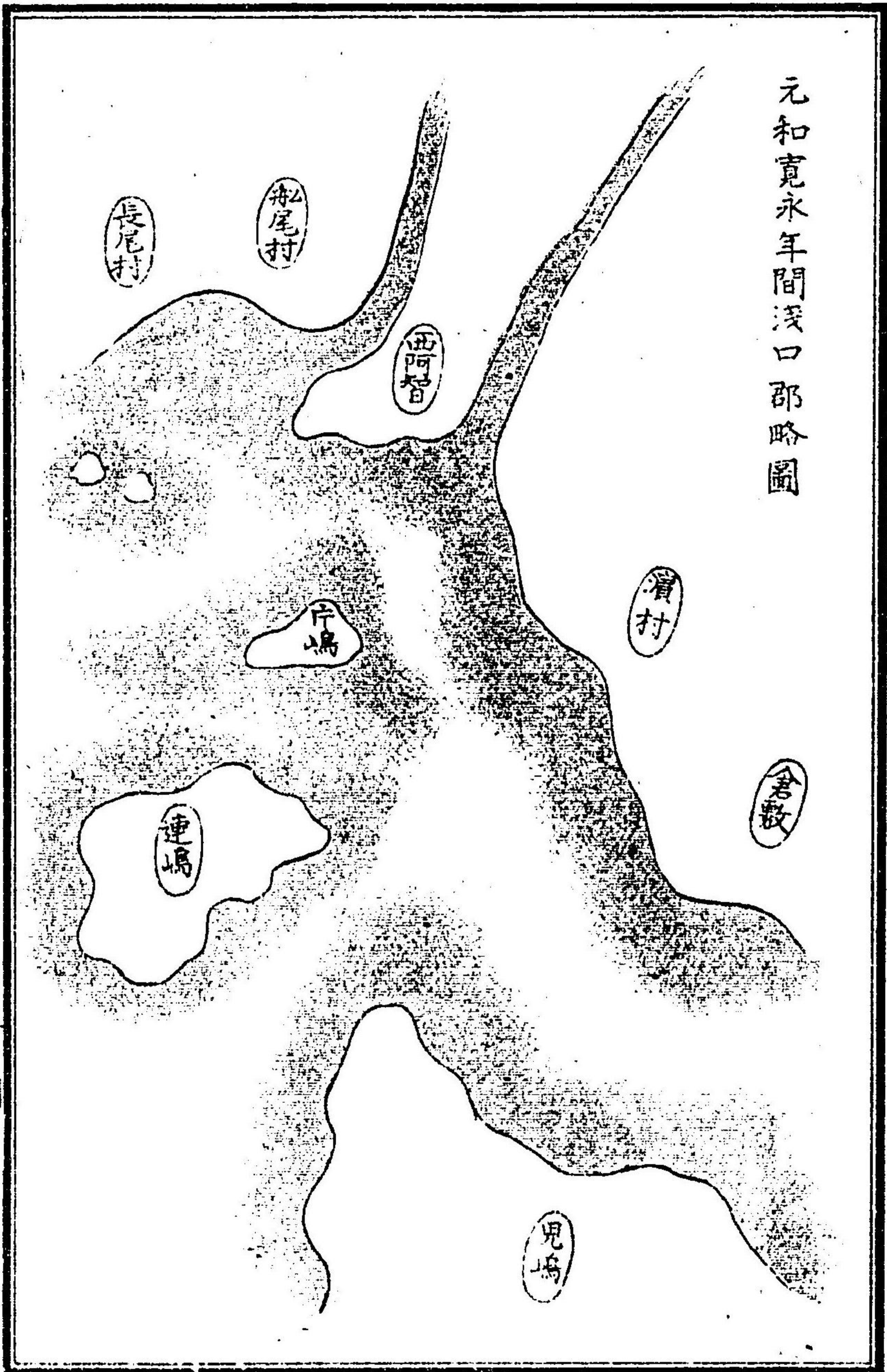
渡辺氏歳元和年間注屋郡圖



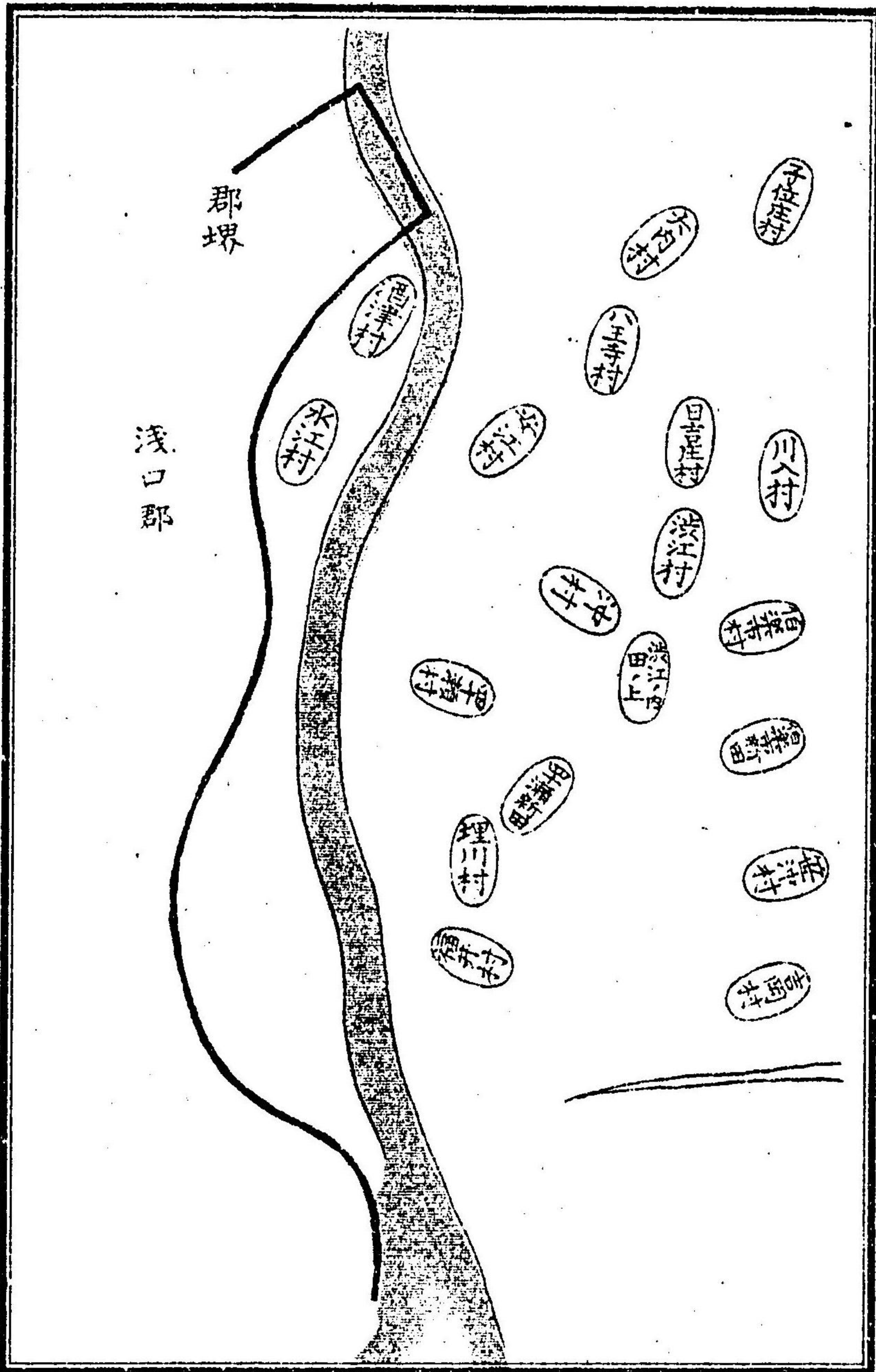
天保九年御改畧地圖

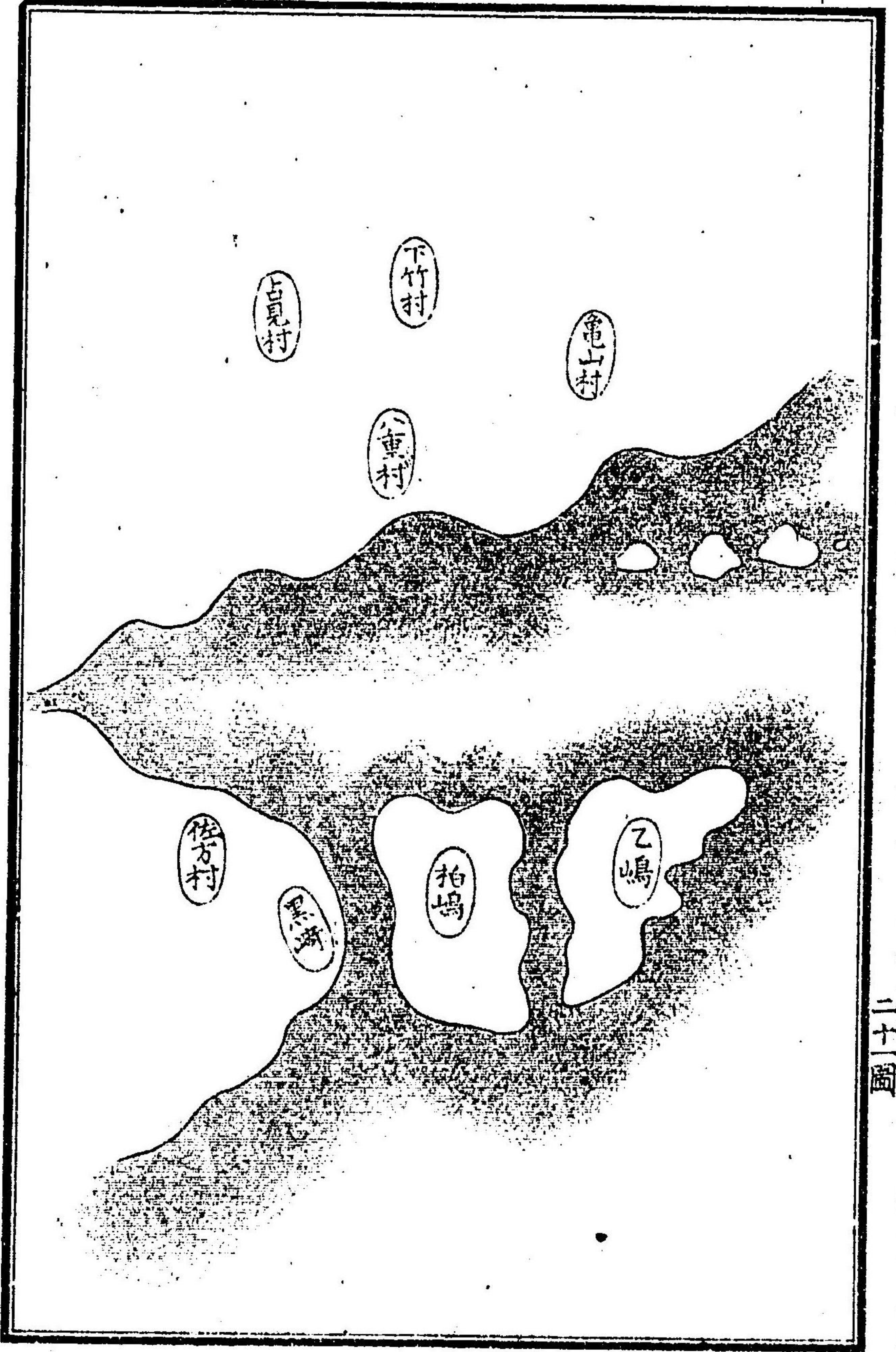
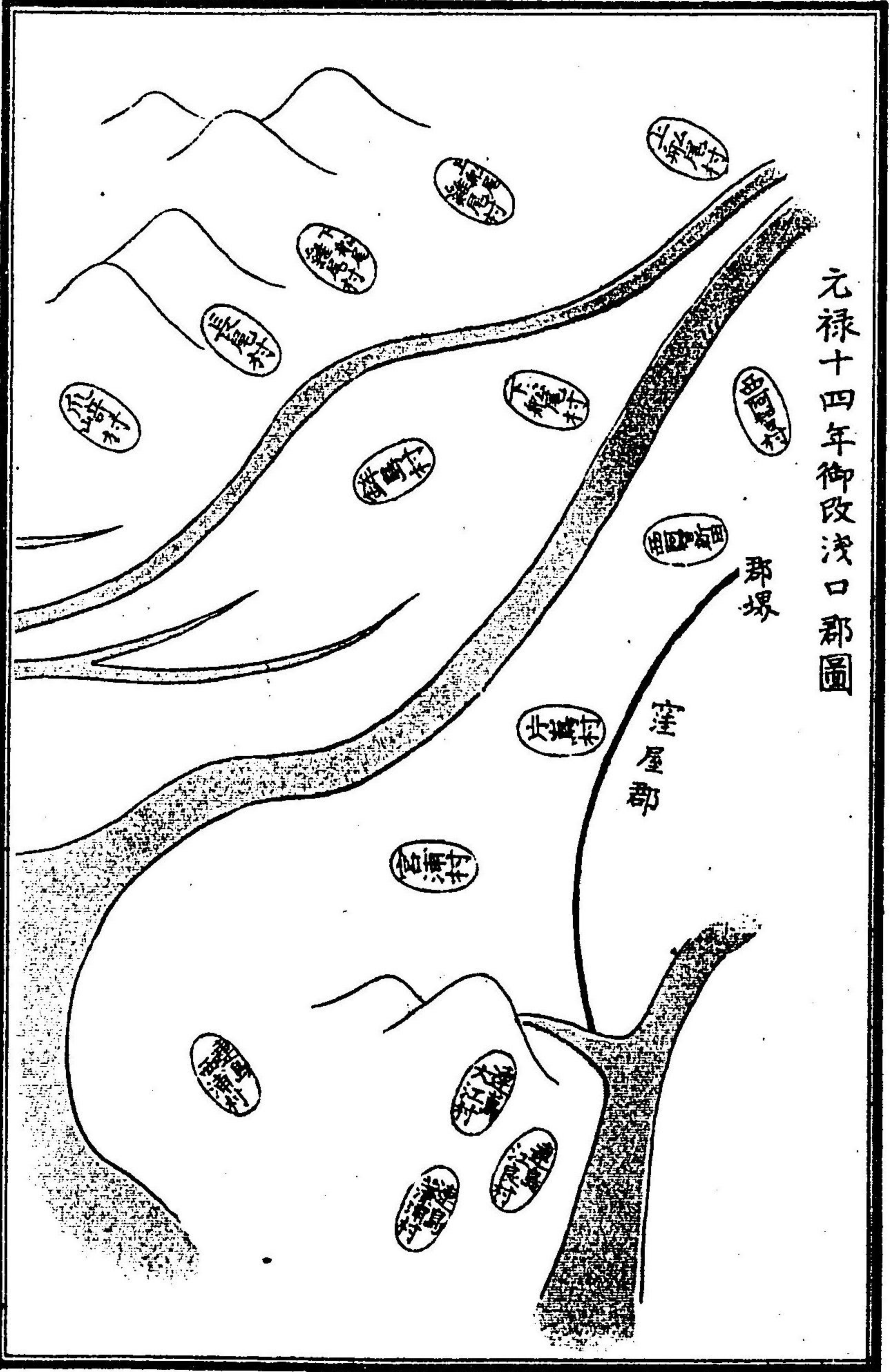


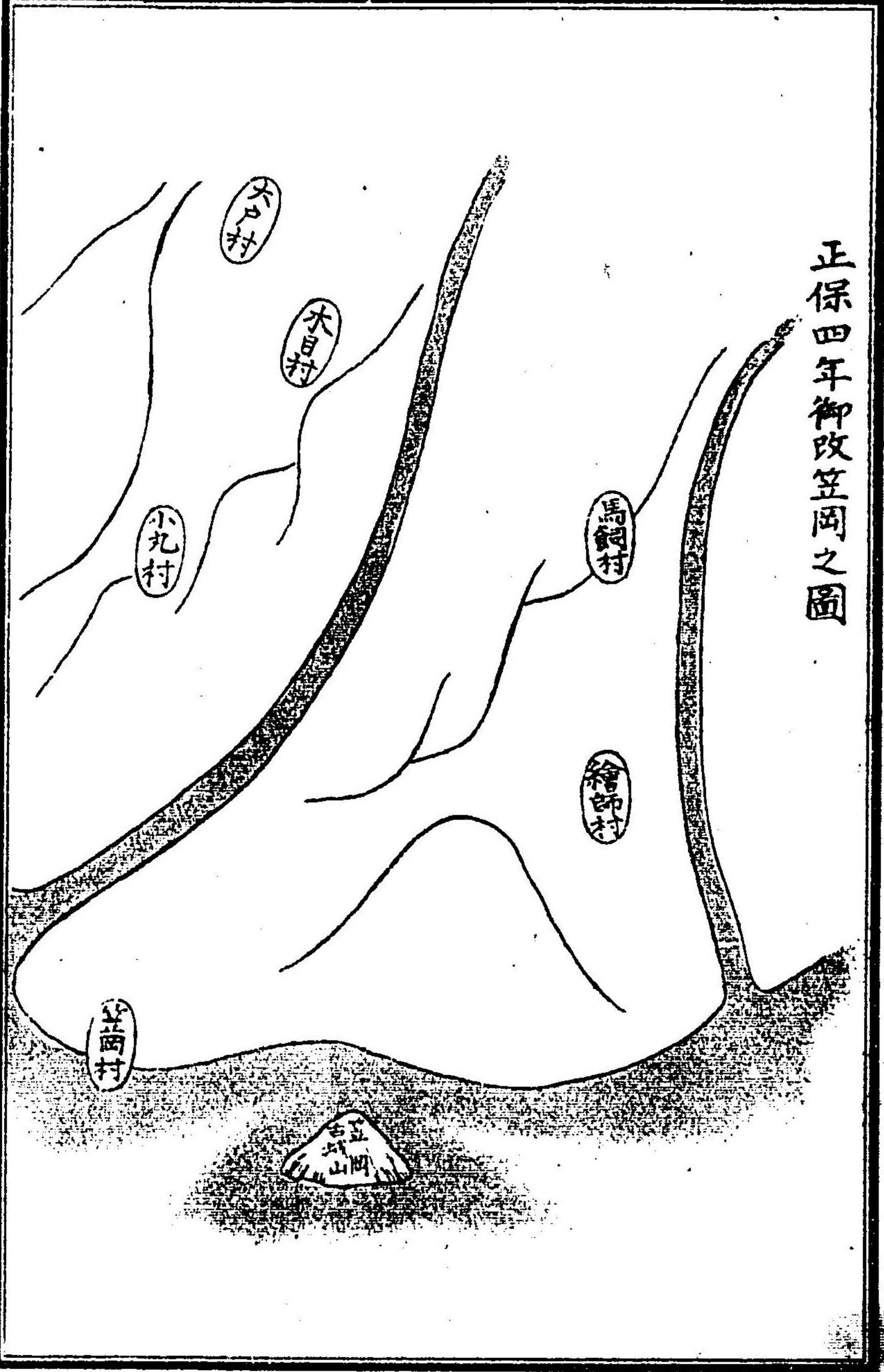
元和寛永年間浅口郡略圖



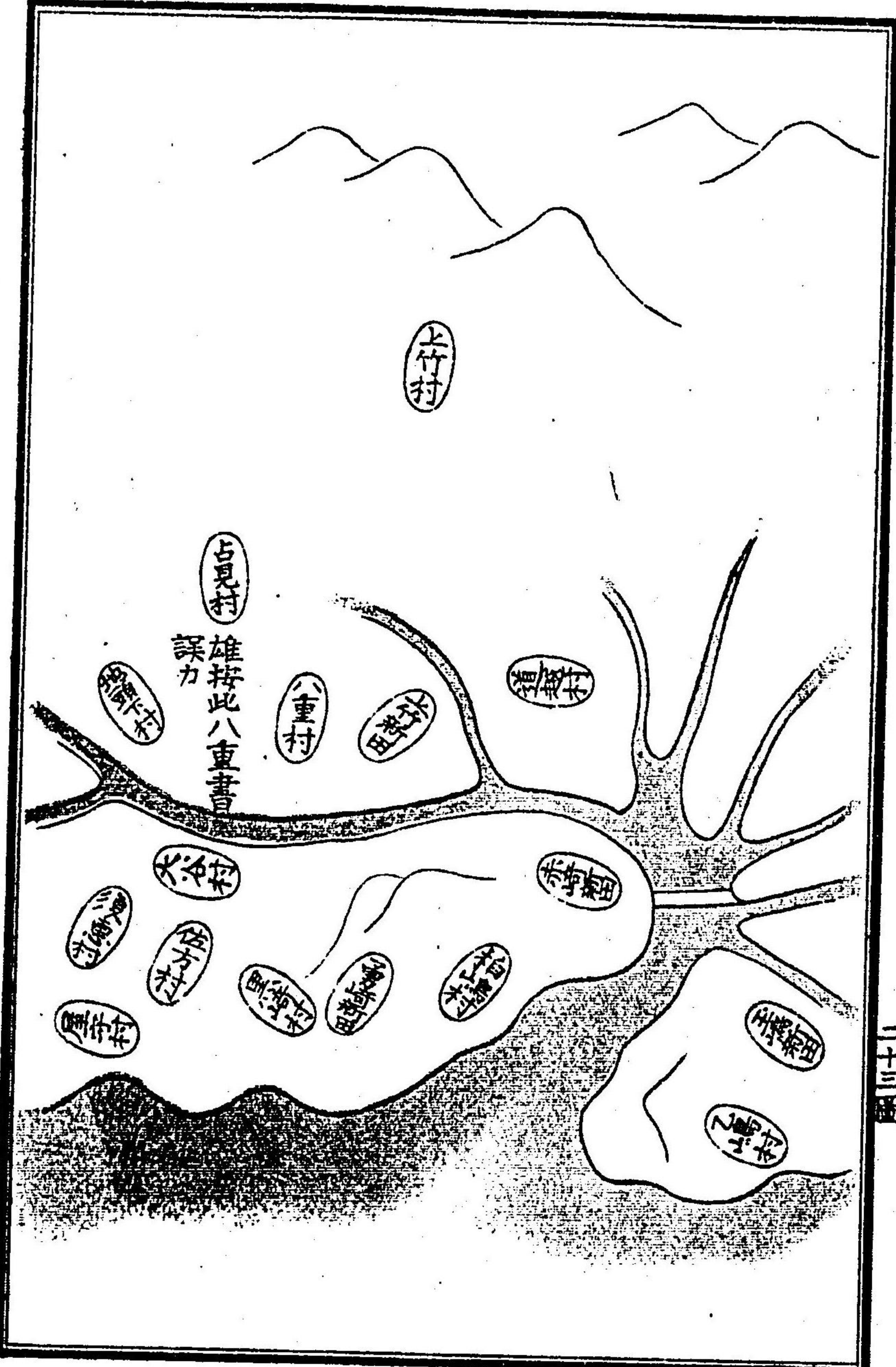
郡界 浅口郡



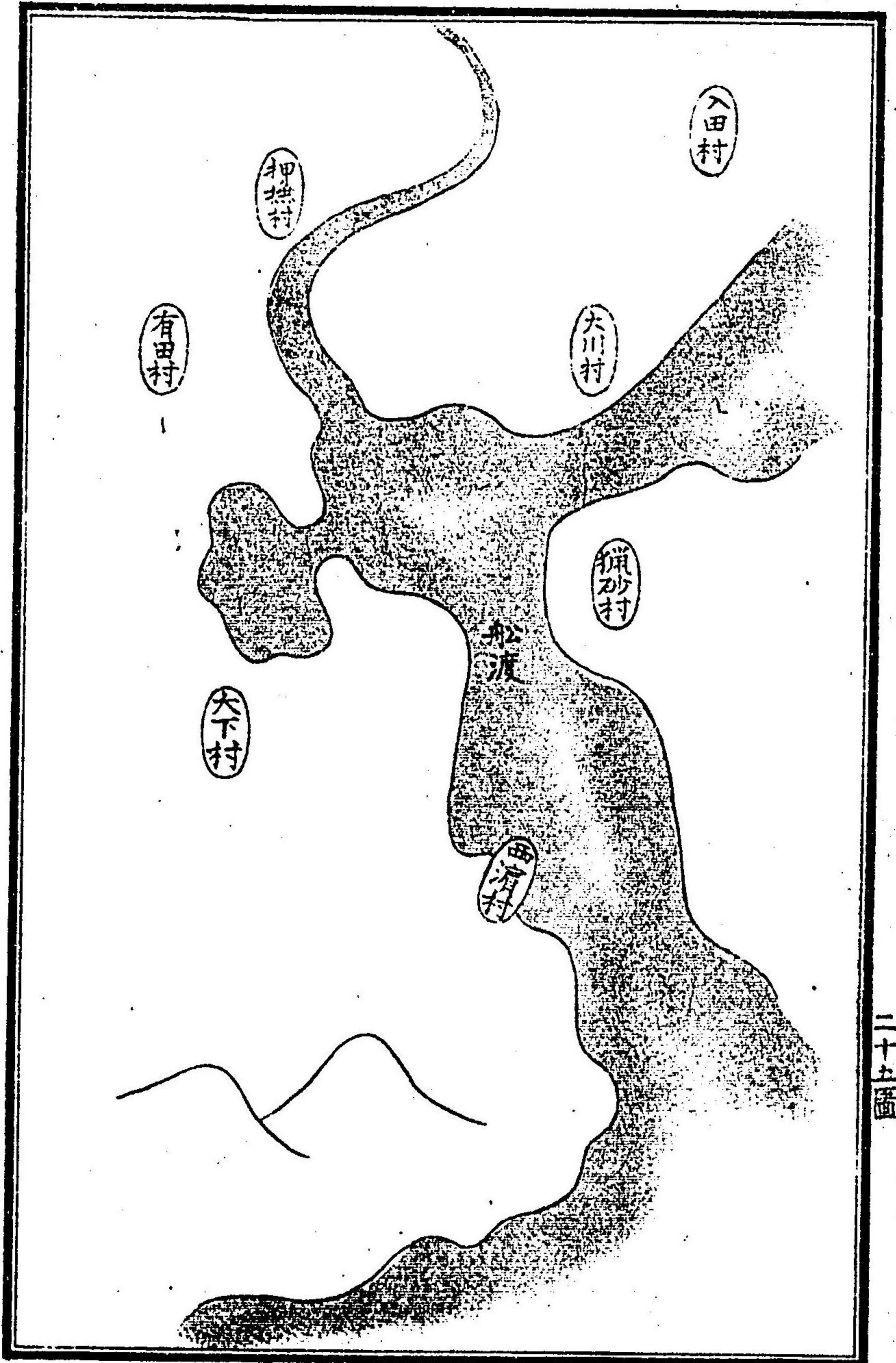
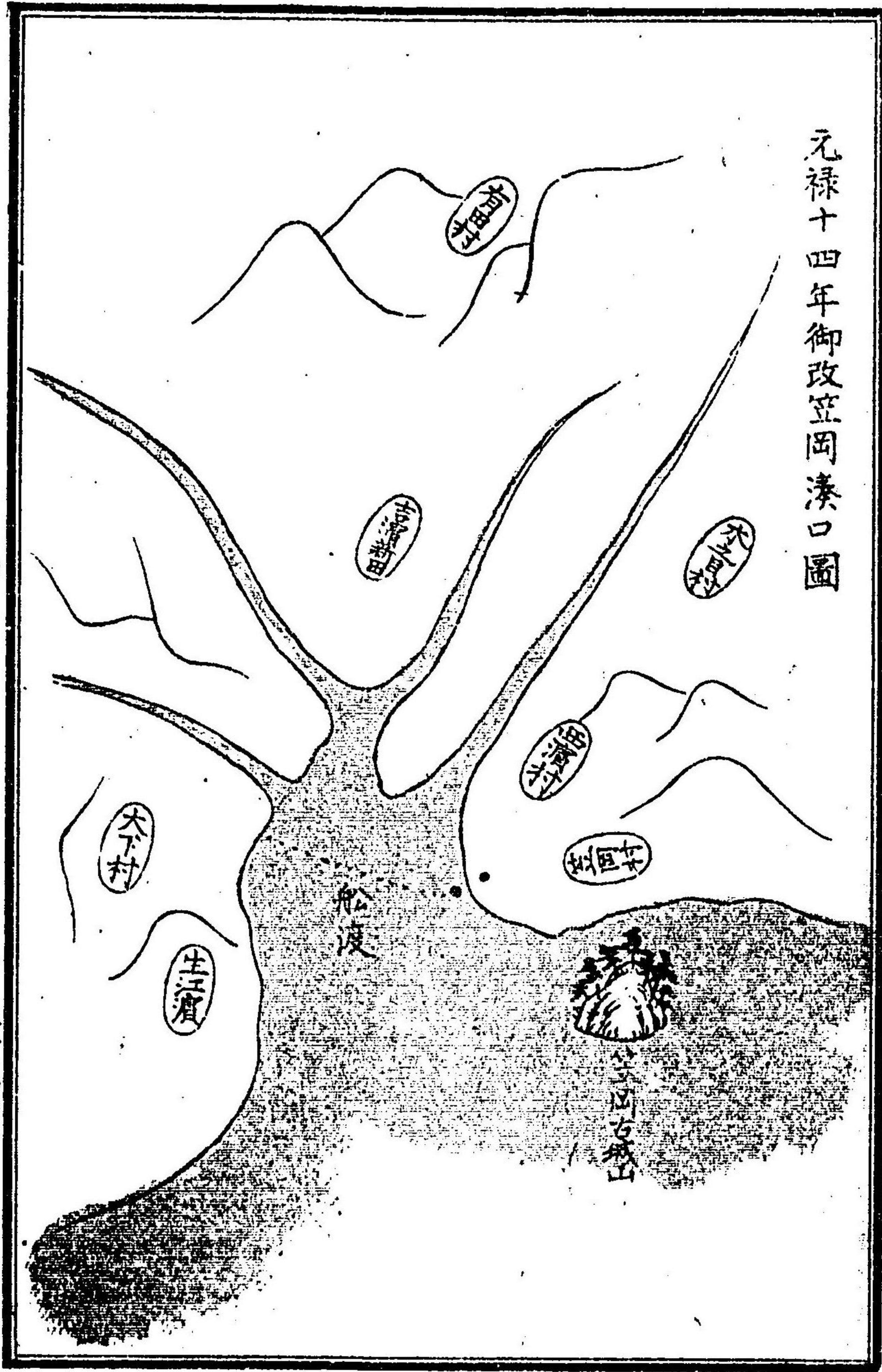




正保四年御改笠岡之圖



元禄十四年御改笠岡湊口圖



吉備國史卷之三

山陰道

小早川秀雄撰

沼田頼輔校訂
山田貞芳校訂

一拾芥抄ニ云フ自京長門西濱行程一千九百七十八里蓋六町ヲ里トスルカ古代ノ往還ハ板倉ノ山端ヲ廻リ濱ヲ傳ヘテ黒尾村ニ至ル上古ハ濱邊ナルカ今往還ハ中古ヨリ成レルカ延長年代ハニ宿驛ハ都宇郡ノ内ト後月郡ノ内ニ驛家ノ有ル由シ和名抄ニ載セタリ其間ニ入江有リテ舟渡モ有リ今ノ往還ハ都宇郡新庄下村ヨリ窪屋郡上林村五萬原ニ至ルノ虬有リテ暇有リ西郡山手三軒屋ヨリ持坂ヲ越エテ輕部村中島村ヲ過キテ下道郡川邊驛ニ至ル持坂長サ三町二十間中古以後ノ事ナリ

山陽ノ道

一此地ハ天正十四年新開地ノ事詳見新開之條今爰ニハ畧之都宇郡松島暇ヨリモズカ鼻ヲ過キ平田村濱村川入村日吉庄村八王寺村ヲ過キ川島川ヲ渡リテ水江村ニ入り淺口郡西阿智村ニ至ル水江ノ渡廣サ三十八間深サ二尺是波田新開也

從足守至倉敷之道

一賀陽郡長良村ノ曠ヨリ南へ行キ下林村上林村山手宿水分西坂村子位庄濱村ヨリ倉敷ニ至ル

川嶋河 過川邊村川邊川ト云ヒ 過水江村則水江川ト云フ

一賀陽郡井尻野村澁井ヨリ流レテ窪屋郡中原ニ至リ三輪村中島村古地村黒田村酒津村八王寺村水江村安江村四十瀬ヲ過キテ備前國兒島郡五軒屋ニ至ル

酒津村用水々通

一天正十三年八月宇喜多秀家公ノ番頭岡豊前守以命新開シテ水ヲ引ク村々ハ生坂村西坂村大嶋村福島村五日市村二日市村都宇郡早島ニ至ル此樋ノ本ノ寸尺請樋四寸ト有リ樋守濱村四郎三郎ト載セタリ今ハ子位庄武市モ樋守ナリ

倉敷淵舟通

倉敷新田羽島吉岡ニ至リ備前粒江村ニ落ツ元和四年ヨリ承應迄ニ成ル正保四年改帳ニ云フ倉敷舟内海舟入廣廿七間滿潮ノ時ハ深サ五尺六七石ノ舟ハ入ル干潮ノ時ハ小舟モ不入ト見エタリ

三ツ小カ淵

酒津村ノ西北ノ山端川邊川ニ流トナリシ股ナリ此處淺口郡ト窪屋郡ト下道郡ト三郡ノ堺目ナルノ故ニ三ツノ郡ノ淵ト云フ事ナリ俗ニ虬カ淵ト認リ云フモノ有ルハ不知者ノ事ナリ虬カ淵ハ此處ニテナカリキ賀陽郡日羽村ノ内水タマリト云地名有リテ其地ニ主ヲ祭レリ若シ此處ヲ以テ日本書紀虬ノフチトセハ仁德帝御宇ハ山南山北一面ニ海ニテ此邊ハ天正開發地ナレバ千有餘歲古ヘナレバフチニハ非ス大舟帆懸テ走ル位ノ事日本紀所載サハノ添ト云フハ今ノ尖澤ノ事ナリ其時添ニ下澤添上澤ノ添トテニツアリシナル事可考又宮内古圖ヲモ考ヘ知ヘキ事ナリ故ニ此ノ三郡ノ淵ヲ仁德帝ノ御宇ノ虬カ淵ト云フハ古代地理ヲ不知者ノ云フ事ナリ委シクハ虬カ淵ノ條ニ載ス非ニ虬カ淵ノ故爰ニハ論セズ

水江渡

天正十四年ニハ此地入海ニテ土地ノ形今ト大ニ異ナリ元和新開以後川附直シ今ノ形トハナセリ正保四年御改本ニ云フ舟渡廣サ三十六間深サ六尺ト有リ

吉備國史卷四

吉備中山

小早川秀雄撰
沼田貞輔校訂
山田芳校訂

賀陽郡粟井村にあり下足守村守福寺の上の山の名上土田村の内にあり又宮内にあり連島にあり鴨方にあり知るへし中備の惣名にや藻蘆草に云ふ吉備山は備中なり又吉備中山とも云ふ平家物語を徴して宮内のみ吉備中山と云ふは誤なり然れども宮内も中山の内なる故に平家物語ことばりて載す其文に曰く備前備中の境庭瀬郷吉備中山と云々然れども宮内にて眞金を吹く其謂れなき事故其地には非ず又川上郡吹屋村に吉備の中山と云ふ有り是れを古歌の舊地にや大同年中眞金を吹きし事ありて村をも吹屋とは云へり金堀穴役所跡もあり其地の大塚氏に大同木と云ふものあり又細谷川其地を帯になせる故に知るへし吉備の中山とは備中の惣名の説尤可なり詳しく初巻に論せり

後拾遺集

清原元輔

誰か又年經ぬる身をふり捨てて吉備の中山こえんとすらん

金葉集

修理大夫顯季

鶯のなくにつけてや真金ふく吉備の山人春を知るらん

新古今集天曆御時大嘗會主基 讀人不知

常盤なる吉備の中山ねしなへて千とせを松の深き色かな

細谷川

平家物語庭瀬郷吉備の中山有木の別所と見えたり宮内と川上郡吹屋村と二所にあり

舉白集 木下若狹守に云ふ備中國吉備の中山に若きぬつれくさの餘り爰彼と見ありき侍りて彼細谷川の邊にいたりて

けふそみる細谷川の音にのみき渡りにし吉備の中山

其水上に上りて見れば小き池の中よりたへく出る清水なり彼清水みな月の比たゆること無くなんといへり

右は宮内の細谷川のことなり古今集所載細谷川は川上郡吹屋村に舊跡あり藻菰草にまかねは鉄の事なり又金のこといへり庭訓に備中の鉄と申すは此の事を徴して誤るなり

古今集

真金ふく吉備の中山帯にせる細谷川の音のさやけさ

真金とはまことのこかねと云ふ事の畧語なり金は銅を取りて製し金とはなすなり

新千載集備中國にくたり侍りける人に餓し侍けるによめる

三善資連

思ひ立吉備の中山遠くとも細谷川の音つればせよ

夫木集

後鳥羽院

真金ふく吉備の中山打どけて細谷川の岩そくくなり

全

忠隆

帯にせる細谷川に見ゆる火は益も真金吹にや有るらん

全

北院入道

よはる舟に鳴鶯や渡るらん細谷川の花の浮はし

家集

兼好法師

さやけさは外にのみこそ聞ゆるれ細谷川の春の夜の月

右の歌は川上郡の中山をよめるもの

翠白集

木下長嘯

滯る細谷川も打解けてけふは春しる吉備の山ひこ

けふそ見る細谷川の音にのみ聞渡りにし吉備の中山

細川玄旨法印幽齋

神はさねかならばしなればまつつきて團子したき吉備津宮哉

右は宮内の細谷川をよめるもの

吉備兒島

八雲御抄に云ふ吉備の兒島備中なり藻蘆草にも備中と云へり但諸島の惣名なり日本書紀に曰く以淡路爲胞中生吉備之子洲古へ下道郡より賀陽郡足守迄海なり故に窪屋郡の諸山島形をなす委しくは古圖にあり

藻蘆草

大納言大伴卿

大和路の吉備の小嶋を過ゆかはつくしの小島たもはゆるかも

藻蘆草に吉備の小島は備前備中備後なり八雲御抄に筑紫小島は筑前とあり

夫木集

行末の心つくしに大和路の吉備の小島は霞こめたり

神南備山

名寄

藤原行盛朝臣

千早ふる神南山の椎柴のいやどしの葉に祈りまつらん

讀人不知

旅ねして妻戀すらし時鳥神南山にさよ更けてなく

神南備山方角抄にあれども未だ勘へす或は備前と當國吉備津の山の間の山と

なん藻蘆草神南の名多し八雲御抄に神南の社大和にありと云々

神南の淵

唯しはしいきて見てしか神南の淵は干て瀬に成にけるらん

有木山

宮内村にあり藻蘆草に備中と云々

夫木集承徳二年正月庚申夜歌合 橘盛永

万代に有木の山の白椿君かさかゆく卯杖にそさる

同名所歌

同

有木山今有木ども君こそはかそへもしらめ松の千年を

發句宗祇國分

山も山中やどりせよほとゝさす

宗祇

茂りそふ木の間に細し谷の水

紹巴

尋てよ吉備の中山さくら人

昌琢

爰に鳴け山あり木ありほとゝさす

牡丹花

音ゆるし細谷川の水の春

法橋玄的

朝霞これしもあけの井かき哉

同

此地平家物語所載中御門鳥丸の正二位大納言成親卿の墓あり其譯爰に畧す盛衰記に

康頼入道

朽果てぬ其名計りは有木にて身ははかなくそ成親の墓

板倉橋

夫木集堀川院御時百首歌

權大納言公實卿

板倉の橋をは誰も渡るともいなればせ鳥そ過かてにする

藻菴草に備中いなおほせ鳥と云々

藻菴草

左京大夫顯輔

板倉の山田につめる稻を見て治まれる代の主をしる哉

比左志山

都宇郡山路村にあり

夫木集正應大嘗會

大藏卿隆博

長閑なる春の日さしの山高み明らけき代の始をとしる

窟山

賀陽郡奥阪村黒尾村に跨かる藻菴草に云ふいはや山備中さか木玉松と云々

千載集治暦四年後三條院の御時大嘗會主基方神樂の歌

藤原經衡

動きなき千代をそいのる窟山とる榊はの色かへすして

新勅投集貞應元年主基の風俗 權中納言頼資

深みどり玉松かへの千代迄も窟の山を動かさるへき

長良川

藻菴草に備中と云々

風雅集

正三位隆博

汲人のよはひもさらそ長月や長良の川の菊の下水

麻佐岐山

下道郡秦原にあり延善式神名帳十八座の内

夫木集建久九年大嘗會

前中納言資實卿

まさき山正木のかつら紅葉して時雨も時をたかへさりける

正應大嘗會

大藏卿隆博

時雨つる正木の山のそかひよりみゆる紅葉の色のてこらさ

夕部山

紫式部

山口の谷よりつゝく夕部山月さへ出る年のくれ哉

二万里

金葉集後冷泉院の御時の大嘗會の主基方備中國二万郷をよめる

藤原家經

みつき物はこふよほろをかそふればにまのさと人かすそひにけり

千五百番歌合

隆信

君か代は二万の里人つくる田の稻のはすへの敷そひにけり

夫木集正安大嘗會

大藏卿隆教

末遠き春のひかへの御調物かすく運ふ二万の郷人

石崎

都宇郡庚申山浅口郡鴨方中山の東端下道郡妹村の八幡山小田新郡賀關戸立相

等に此名あり左の歌一首のみ藻蘆草明題類字名所集などに見ゆ

續後撰集仁治三年主基の風俗歌 前中納言經光

末遠き千代の陰こそ久しけれまた二葉なる石崎の松

雄琴里

金葉集保安四年大嘗會悠紀方

藤原敦光

松風の雄琴の里にかよふにそ治れる世の聲は聞ゆる

夫木集

頼氏

今はまた通ふためしもよそに聞く玉のをここの里の松風

彌高山

八雲御抄に備中と云々藻蘆草いやたかき山どもあり

金葉集大嘗會主基方

藤原行盛朝臣

雪ふれは彌高山の梢にハまた冬なから花咲にけり
此歌は賀陽郡日近村なり

道記

細川幽齋法印

明はのや麓をめぐる雲さりに彌高山の姿をそ見る
此歌は下道郡彌高山なり

松山

八雲御抄并小鏡に備中と云々上房郡にあり

新續古今集永和元年大嘗會主基方屏風

權大納言忠光

十歸の花咲ぬらし松山の梢をたかみつもる白雪

小鏡

崇徳院

濱千鳥跡は都にかよへども身は松山の音をのみそなく

高倉山

上房郡松山からく橋の上又淺口郡高倉屋敷ともいふ尋ぬへし

詞花集後冷泉院御時大嘗會主基方 藤原經朝朝臣

打ひれて高倉山につむものはあらたなきよのどみくさの花

風雅集

匡房

君か世は賤か門田に蒔稻の高倉山にみちぬへき哉

新千載集村上御時天慶九年大嘗會主基方

讀人不知

雲の上に万代とのみ聞ゆるは高倉山のこゑにそ有ける

右三首藻蘆草類字名所集にあり

野山里

賀陽郡にあり

夫木集正安大嘗會國々名所歌 隆教

わかすこそ秋の野山の郷人は曇なきよの月を見るらめ

花見山

藻蘆草備中とあり阿賀郡にあり

夫木集正應大嘗會

隆博

今そしるちらぬ櫻の花見山風もうらゝに治まれる世を

松井

類字名所集並藻蘆草備中と云々淺口郡板村の内小田郡水砂の内阿賀郡阿口村に有り然れども賀陽郡山内村にはわらず歌意に合はず

新古今集建久九年大嘗會主基 權中納言資實

常盤なる松井の水を結ふ手の掣ことにそ千代はみえける

石疊

上秦村にあり

万葉集

讀人不知

いはた、みさかしき山と知りなから我はこひしき友ならなくに

鴈尾山

賀陽郡山内村にあり

新古今集寛治二年大嘗會悠紀方 前中納言匡房

とやかへるたかの尾山の玉椿霜をハふとも色はかはらし

湯川寺

外國は水草さよしことしけき君か都はすまぬまされり
續古今集備中國湯川寺といへる所にて
山田もるそはつの身こそ悲しけれ秋はてぬればとふ人もなし

辞大僧正歌

玄實僧都

黒髮山

新見町の上に黒髮山青龍寺と云ふあり下道郡尾崎村熊野權現を黒宮と云ふ何れか詳らかならず八雲御抄藻蘆草下野と云々同名有ればなり神社考に日光山黒髮山或は黒上山ともあり

新千載集文應元年大嘗會主基方 從二位行家

色かへぬ黒髮山の山かつらかくてやひさにつかへまつらむ

續古今集

人丸

ぬは玉の黒髮山を朝越ゑて木の下露にぬれにける哉

新後拾遺集

源三位頼政

身の上にかゝらんことを遠からぬ黒髮山にふれる白雪

秋阪山

藻蘆草に云ふ備中と云々川上郡田井村枝村田井町と云ふ所にあり酒津村にもあり左の歌類字名所集にも出たり

玉葉集貞應元年大嘗會主基 前中納言頼資

初しくれぬれにけらしなわすよりは秋さか山の紅葉かさゝん

長田山

八雲御抄に備中と云々當國坂本と矢戸の間に長田村あり城は川上郡穴田村の内中野村の内か詳らかならず

千載集後一條院長和五年大嘗會 善滋爲政朝臣

千よどのみおなし事をそ調ふなる長田の山の峰の松風

新古今集仁安三年大嘗會主基方 權中納言兼光

神代より今の爲とややつかはに長田の稻のしなひ初けん

玉田野

藻蘆草にあふみと云々同名あるか川上郡玉村後月郡高屋村の内高草と云ふ所の前を玉田と云ふ人あり未だ勘へず

新拾遺集

清輔朝臣

曇なき玉田の、への玉ひかけかさすや豊のあかりなるらん

玉日影を日蔭草と中山集にあり

松原山

藻蘆草に備中と云々川上郡二ヶ村の内にあり或は云ふ松山四十二丸の内と此松原山には八幡天神あり類字名所集に左の歌を引く

風雅集

院御歌

村雨のなかは晴行雲さりに秋の日さよさまつ原の山

同

伏見院

軒近き松原山の秋風に夕暮清く月出にけり

にしき郷

藻蘆草備中とあり或人云ふ川上郡大竹村近所と未だ勘へず

出處不知

讀人不知

盛なる萩さく野邊をきて見れば錦の郷とむへもいひけん

豊岡

哲多郡宮内河村に豊岡明神まします又新見の近所とも申侍り

夫木集正安大伴會

大藏卿隆教

時にあふ民の心もやすらけき御代の始の豊岡の里

泉井

藻蘆草に備中と云々小田郡吉田にあり又大戸にあり山手又は岡谷にもあり川上郡小泉かといふ人多し

大伴會和歌集後三條院治暦四年十一月主基方

前筑前守從五位上藤原朝臣經衡

國郡今を榮えむ泉井の君か御代には絶えしと思へは

なか井

藻蘆草備中と云々英賀郡中津井にあり

夫木集

讀人不知

千とせふる御調備ふる我君の中井の水の年へたる哉

春邊山

藻蘆草備中但丹後也と云々阿賀郡中津井の奥或は妹尾村とも云へり窪屋郡坊

邊村かど云々人多し未だ勘へず

藻蘆草

讀人不知

烟立つはるへの里はいにしへの難波の御代の氣色こそすれ

出處不知

讀人不知

けふといへは朝けの烟其まゝに春邊の村や霞立らん

宮高山

藻蘆草備中と云々

藻蘆草

讀人不知

三年へし宮高山の宮柱ふとしき立て後も萬世

銀山

藻蘆草丹後の名所と云々

藻蘆草

讀人不知

懐にうけしこかねの末廣み榮えゆくへき光をそ待つ

類聚

匡房

白金の山の間なる梅の花万代經へき匂ひこそすれ

倉垣

藻蘆草備中と云々後月郡井原にくらかけといふ所あり是かといふ人あり

藻蘆草

匡房

倉垣の里になみよる秋の田は年なかひこの稻にそ有ける

雄神川

八雲御抄に越中と云ふ同名あるか後月郡西荏原今市の町はつれ川上の小川と
なん町の人々はおさう川と申侍りカミシノ神嶋カミシノの類にや

藻蘆草

讀人不知

ねかみ川紅ひ匂ふ乙女らし葦附とると濫にた、すらし

此歌万葉八雲御抄藻蘆草に乙女とはいまた嫁せざる女をいふと見えたり

高月山

藻蘆草に近江に同名あり後月郡木子村にたかつき下道郡下倉にかうつきと云
ふ地あり

藻蘆草

讀人不知

秋といへば光を添へて高月の川せの波も清くすむ也

夫木集

大藏卿隆博

霧晴る、高月山の月かけに行も乱さす鴈は來にけり

轟橋

小田郡江良本堀の堺の往還なり藻蘆草に近江と云ひ清少納言抄には大和と云
ふ同名なるへし

蔽ふる玉ゆりすゑて見る計りしはしなふみそ轟の橋

小田渡

小田堀越のことなるへし藻蘆草に小田郷ともいへり

夫木集備中國をたの渡と云所を夜ふかくすくどて

大江嘉言

有明の月に夜ふかく出ぬれば小田の渡りに鴈を鳴なる

富山

藻蘆草に備中と云々小田郡本堀村まや観音の上の山と云ふ人あれども淺口郡
富村の山なるへし

夫木集

兼盛

富山のかげまさり行君か代にあへる國人たのもしきかな
昔より名付初たる富山は我君か代の爲にそ有ける

木々の里

藻蘆草に備中といへともいまた勘へす走出村の内にかゝるの峠あり或は是ならん

夫木集

隆教

色こどに染る紅葉の木々の村時雨けるとは今としらるゝ

高機山

藻蘆草に備中又近江にありと英賀郡中津井村小田郡大江村にもありいまた勘へす

堀川百首

顯仲

紅葉する高機山を秋行けはしたてるばかり錦織かな

いはめ山

藻蘆草に備中と云へともいまた勘へす小田郡新賀村岩目と云ふ所あり

出處不知

讀人不知

吉備國のいはめの山のいはすとも千代も榮えん岸の松かえ

岩倉

八雲御抄類字名所集に山城と云々藻蘆草に備中と云へり小田郡岩倉郷かと申侍り都宇郡日幡村に岩倉宮ありいつれか

夫木集正安大嘗會

大藏卿隆教

うたふらし世をねさまれといはくらの村のもろ人もろこゑにして

稻井

宗祇國分勅撰名所抄藻蘆草に備中と云々或は云ふ松山領種井村のことか種を稻と誤るか金葉集類字名所集皆稻井とあり小田郡稻木に名地の井とて清水あり是ならんか

金葉集稻井の里を人に代りて讀る高階明頼

苗代の水はいな井にまかせたり民やすけなる君か御代かな

稻総

八雲御抄に越前と云々藻蘆草に近江或備中といまた勘へす

名寄

茂右

長閑なる天下かな稻穂の山田に出子の早苗どるかな

夫木集

兼隆

作る田の蒔へき君か御代なれば稻穂山の豊なるらん

千田村

八雲御抄ちだ浦は紀州と万葉にもあり小田郡甲努村せん田と云ふ所あり

新拾遺集

時を得てちたの村人いくちたひとれど盡せぬ早苗なるらん

神村山

藻蘆草に備中とあり浅口郡小坂杉山ならんか詳かならず

出所不知

讀人不知

千早振神村山の初雪をしらゆふ花と人や見るらん

引野

藻蘆草に備後と云々浅口郡西小坂の枝村引野なるへきか人にたつぬへし

古今集

梓弓引野のつゝら末つひに我おもふ人にここのしけけん

此歌みかどの近江の采女に給へる御歌なりとなん

衣笠岡

類字名所集にいまた勘へす古連歌師とも笠岡の町かと云ふ

續古今集

音にさく衣笠岡をまた見ねは待つゝそふる雨の宮には

此歌は雨の宮に衣笠を奉らんと願を立てれそくしけるほどに神のしめし給ひけるとなん宗祇云ふさぬ笠岡雨の宮の御座なる春日の末社なりこれも仁和寺の邊なり八雲御抄に山城と云々

神嶋

新續古今集建久九年大嘗會主基方尊國

うさ中をかけて祈らん神島や磯間の浦の波のしらゆふ

高嶋

日本書紀神日本磐余彦天皇御卷に曰く入吉備國起行宮以居之是曰高嶋宮藻蘆草に備中又近江と

拾遺集

讀人不知

高嶋やみほの中山袖たて、作りかさねし千世のなみくら

新拾遺集

増基法師

高嶋や松の梢に吹風の身にしむ時は鹿もなくなり

勝間浦

備後國と云ふ水野勝成の諱を憚りて今奮神鳥と書く藻蘆草にすてはらとある
はいか、勝間田の地は八雲御抄兼範卿五代集歌枕に下総と云々清輔抄には美
作と云々

名寄

元輔

思ひ出てよ千よの子の日のけふ毎に勝間の浦の岸の姫松

眞那邊嶋

山家集に云ふ

備前見島と申島にわたりけるに中ひいしふかはと申方へまかりて四國のかた
へ渡らんとしけるに風あしくてはとへにけりしふかはの浦田と申所にれさな
きものどものあまたものをひろひけるをどひければつみと申ものひろふなり
と申けるを聞きて

おりたちてうら拾ふあまのこはつみよりつみをならふなりけり

眞鍋嶋と申嶋に京よりあき人どものくたりてやうくのつみの物ともあきな
ひ又しはくの嶋に渡りてあきなはんとするよし申けるを聞きて

眞鍋よりしはくへかようあき人はつみをかひにて渡るなるけり

申にさしたるものをあきなひけるをなにそとどひければ蛤をほして侍るなり
と申けるを聞て

おなしくはかきをはさしてはしむすへきはまくりはよりなもたよりあり

八重村

藻蘆草に備中と云々浅口郡占見新田となん或は云ふ此は近來出來の村名時代
いか、八重山といふあり此山は近來のものにあらず然れども藻蘆草に村の名
所とせり

鹽泊

浅口郡五嶋の事なり

夫木集大宰任にて下たるにふなゑひたきてもたひといふとまりにて

大宰大貳高遠卿

ころふねにゑふ人ありとき、つるはもたひにとまるけよやあるらん

万代集建久九年大嘗會主基方 前中納言資實卿

見つさものはこふ千舟もとき出よもたひのとまり搦もかなひぬ

阿智瀉海

和名抄に窪屋郡とあり今淺口窪屋二郡の境の町中に其名あり

調花集花を、しひこ、ろを讀める 大藏卿匡房

春くれはあちかたの海一かたにうくてふいとの名こそをしけれ

藤戸

備前兒島なり或は云ふ近年大橋か、りて橋より向ひは備前此方は備中となり
たり

藻菴草

讀人不知

大御舟したなる波はかくれども藤戸をさして島かくれつ、

白石嶋

秋の寐覺

俊頼朝臣

とへかしの沖のしら石しらすとも物れもふ舟のなきこかる、を

長尾村

新拾遺集後三條院御時大嘗會 藤原經衛

はるかにはいま行末をねもふへき長尾の村のなかきためしに

吉備酒

贈大宰大伴卿歌

丹生女王

古人乃令食有吉備能酒痛者爲便無貫寶賜牟

吉備の酒とは名物か備前備中備後を吉備三ヶ國と云ふ彼國々吉備津宮と申神
いはひ給へり万葉には黍にても酒を作るなり其酒に酔ふてやぬきすたはらん
となり

吉備國史卷五

小早川秀雄撰
沼田貞輔校訂

都宇郡

神社佛閣

宮崎村御崎大明神

一宮崎村神田高一升二合御崎宮八幡先年宮地永引ニテ畝數一反余アリ中田二反
高一石八斗兩社へ寄附ス太田近江守支配
一前寫村下一反二畝高二斗四升延寶年中開發ノ時寄附ス享保十七年社司太田近
江同山城罷出拜領

宮崎村鶴崎宮御崎社

勸請年紀不分明再建ノ次第棟札舊記ニアリ此宮本地ハ毘沙門天王ニテ性徳院
別當ナリ今古作ノ毘沙門社内ニアリ延文四己亥五月或ハ元弘建武時代ノ勸請
云云

棟札ノ寫

奉造御崎大明神上葺一字大榎那源朝臣安原備中守同主稅頭同和泉守于時慶長十九廻甲寅十月吉日本願樂頭藤左衛門大工掃部頭正遷宮大阿闍梨性德院法印増秀

同

奉上棟備中早島庄御崎宮一字大榎那兒嶋住高島市正貞政本願兒島胸上村井坊大工藤原朝臣右衛門盛家小工同藤原朝臣依之願主塩津村安原出兵衛建此砌石州銀山之住處也依之……助成不佳……文字不明
于時文祿二年
當村一結衆……

同

奉造毘沙門殿一字大榎那源朝臣安原備中守草壁臣人知種聖主天迦陵頻伽摩于時慶長十八癸丑本願樂頭太田藤左衛門安原主稅佐草壁臣人直種

同

奉造毘沙門天一字
哀感衆生者我等今敬禮菊月吉日安原和泉守德忠本大工藤原朝臣堀毛肥後守盛次小工藤原朝臣堀毛掃部正盛瓦工藤原吉家

同

正徳五乙未

奉造立毘沙門殿一字檀中氏子

大工藤原朝臣六左衛門

菊月吉日

同

奉造立御崎宮八幡宮願主惣氏子

于時享保四年十二月

右鶴崎御崎宮神職太田近江同氏二人構往古別當中庄安生山性德院持ナリ何歳ニ別當ヲ離レシヤ慶長十九年ニハ性德院ノ別當ナリ

一御崎宮ハ吉備津宮ノ四方十二アリ其一牛寅御崎ト云フ寛保迄吉備津ヨリ祭禮ノ節奉弊使アリシト云フ

一本社凡四間ニ三間釣殿前殿凡五間隨身門石鳥井等松林ノ中ニアリ多開天ノ堂三間四面也末社稻荷社アリ一間四方ナリ性德院預リニテ此宮古ヘハ兩部習合ナルト明ケシ慶長十九年ニ正遷宮セシ祝部座預棟札増秀寛文七年六月ニ死セリ然レハ此時迄ハ性德院此宮ニカ、レリ寛文六年吉田家神職支配トナルノ御觸書アリ備前之ニ依テ寛文七年寺ヲ還俗サセタリ然レハ此節ヨリ頓ニ思ヒ出

シテ大田氏ノ搆トナレルニヤ寺無住ノ節次第ニ神佛離ル、様ニ成タリ
 一社殿相殿正八幡宮山城ノ八幡勸請ト云フ林道春神社考又元享釋書ニ八幡ノ
 ヲ載セタリ清和帝御宇行教和尚崇宇佐神神憑教託宣曰示ニ八正道ニ垂權迹者内
 典以ニ正見正思惟正語正業正命正精進正定正慧爲ニ八正道心正則身口意自清三
 業無邪内外真正是諸佛出世本懷和光垂跡亦皆爲此故也又八方立ニ八色之幡在ニ
 密教爲ニ西方阿彌陀三摩耶形也故行教袈裟現彌陀三尊或託曰大自在王菩薩以
 託曰昔靈山說法華今在言中示現大明神又建ニ八正幡度ニ八方衆號ニ八幡今爰號ニ
 正八幡此ノ故云カ佛像圓象八幡像アリ筑前宮崎八幡縁記曰昔白幡四赤幡四自
 天而降此故名ニ八幡植松爲標至今有ト云フ
 山州鳩峰本地彌陀或ハ釋迦行教和尚宇佐ノ御託宜ニ依リ清和帝勸請シ玉フ然
 ラハ則チ鳩峯ト云フノ八幡ハ大菩薩ナリ元來戰國ニハ僧ノミ能ク讀書シテ
 武士自ラ文盲ナリシ吉田トテモ只神主ニテ寛文ヨリ以下諸社ヲ司リ上古ハ佛
 道混合ノ法ノミナリシ清和帝宇佐ヨリ男山鳩峰ニ遷ス又何頃此地ニ遷シ祭リ
 シヤ社人ハ多ク佛法キラヘ凡古ノサマヲ記スルノミ

箕嶋村日蓮宗吞海寺

一如意山吞海寺開山別峰和尚應永九年 壬午七月十六日入寂其地今ニ山内ニアリ
 ト云ヘリ往古禪宗ナリ其時ノ本尊ハ當村安養院ニアリ御影大神宮並ニ靈岳和
 尙行狀記等庭瀬松林寺ニアリ香爐花瓶今ニ當山ニアリ舊記ハナシ
 日仁和尙寛永十一 甲戌 七月十四日死以下住僧ノ次第如左
 日長 万治四年正月 立 享保十一年 日理 元祿三年 七日 賢 正徳四年 十日 誠 延享三年
 日運 寶曆二年二月 日耀 全四年 七月 日宜 全六年 二月 住 明和五年 日歸 天明七年 六月
 進安 永八年四月 日立 寛政四年 十月 日深 全元年 九月 日侃 文化七年 五月 日眞 全十一年 六月
 月十五年 八月 日義 一月十四日 日朔 日 月十五日 日眞 十月六日 日登 保
 古寺ハ廢滅シテ其趾田地トナリ現存ノモノハ法主院岸南坊幸造坊等ナリ亦南
 方畑ノ名ニ山門跡アリ松二本ヲ殘セリ其邊ヲ馬場ト云フ西方ニ的場ト云フ畑
 アリ按スルニ箕嶋村内ナ今吞海寺ト稱スルハ古ヘハ此寺ノ寺領ナリシニヤ何
 レノ頃ノ領主ニヤ召シ上ケラレシトナン
 一今開山堂一間半四面ニ半ノ内陣瓦葺ナリ七面明神二間ニ一間半内陣ハ一間半
 本堂六間ニ五間開山堂ノ前別峯和尚入定地アリ石一間四面ナリ鎮守三十番神
 石鳥居庫裏凡六間位門

一往古禪宗ノ時ノ墓等皆取リ散ラシ什器書類改宗セシヲ以テ明ラカナラス只慶長十三年ヨリ花房助兵衛此地ヲ領シテ凡テ日蓮宗ニ改メレム荷シ服セサル者アル時ハ金銀ヲ以テ其志ヲ變セシム予ハ大ニ開山ノ志ニ非サルヲ嘆セサルヲ得ス

松林寺古記曰應永十一年十月南禪住持一麟曰師諱法穆字靈岳備中準島人父藤原氏母某正應三年生七歲喪父依登福山寺出家永仁四年丙申歲中沉醜馬座後悔之嘉元二年在洛之建仁寺後歸備中苑裏於笑島營香海寺康安元年辛丑十二月十三日嘗偈而泊然化壽七十三歲ト見エタリ今香海寺開山ノ墓ヲ誤リテ別峯トナス疑フラクハ靈岳ナラン古記ヲ監ミテ知ルヘキナリ

法系御集ニ靈岳和尚ノ法脉アリ左ノ如シ

釋迦 迦葉 阿難陀 南那和修 優婆塞多 提多迦 彌遮迦 婆須密 佛陀難
提 伏駄密多 波温縛 富那夜耆 馬鳴 迦毘摩羅 龍樹 迦那提婆 羅喉羅
多 僧迦難提 伽耶舍多 鳩摩羅多 闇夜多 婆次盤頭 摩奴羅 鶴勒那 師
子 達摩達 婆舍斯多 不如密多 盤若多羅 達磨 惠可 僧璨 道信 弘忍
惠能 馬祖 百丈 希連 臨濟 興化 南院 風穴 首山 分陽 石霜 楊

岐 白雲 法演 天寧 虎丘 應菴 密菴 破菴 无準 聖一 崇壽士雲州泉
海會乾 士曇廣 備香海 靈法穆
箕島正八幡大菩薩

此宮勸請年月知レズ日本書紀曰譽田天皇足仲彥天皇第四子也母曰氣長足姬尊
天皇以下皇后討新羅之年歲次庚辰冬十二月生於筑紫之蚊田幼而聰達玄盛深遠
動容進止聖表有異焉皇太后攝政之三年立爲皇太子初天皇在孕而天神地祇授三
韓既產之穴生腕上其形如輶是肖皇太后爲雄裝之負輶故稱其名謂譽田天
皇

二十二年春三月甲申戊子天皇幸難波居於大隅宮

四十一年春二月甲午朔戊申天皇崩于明宮時年一百一十歲

欽明天皇三十一年冬肥後國菱形池邊民家兒甫三歲神託曰我是人皇十六代譽田
八幡磨也諸州垂跡于神明又顯于此其後差勅使移豐前宇佐宮元享釋書曰清
和帝御宇行教崇宇佐神憑教欲接帝都邊遂移于山城國男山山下有流清和帝
建社奉之爲託宣所云此地勸請知レズト雖凡窺ニ按スルニ天台僧ノナス處ニ
似タリ今社僧正福寺

一 本社八尺四方 釣殿凡ソ一間ニ二間 前殿四間ニ二間 隨身門 石鳥居二所
本地阿彌陀佛像釋迦尊ヲ内陣ニ藏ム末社一座公事根元ニ云フ石清水放生會者
八月十五日也毎年自八月一日至二十五日

同村汗入御崎社

一 本社々僧如意山香海寺携汗入吷ノ山頂松林ノ中ニ鎮坐セリ本社八尺四方釣殿
一間ニ一間半 前殿四間ニ二間山上ニ石鳥居等アリ末社二座アリ
按スルニ此宮吉備津ノ御崎ニヤ土人ノ口碑ニ鎮座ノ節供奉ノ人々休ミテ汗ヲ
入ル故ニ此名アリト云フ古ヘ社僧ハ天台真言ノ兩宗ナリシニ近世改宗シテ舊
記ヲ失フ

妹尾村啓運山盛隆寺

一 當寺ハ戸川肥後守達安公御妹君宇喜多左京殿御臺所眞院殿妙圓大姉爲ニ菩提御
老母妙承尼御建立也往古眞言宗也慶長年中改宗開基城國院玉補日風大徳也境
内御除地三千余坪日風京妙覺寺日興聖人弟子也由レ之古來雖ニ妙覺寺妙寺日興
遠島ノ後身延山日乾聖人兼帶ナリ後之ヲ嫌ヒ後暫ク本寺ナキナリ延寶年中戸
川御本家滅畢由レ之加夜郡庭瀬町廣榮山長國寺ト共ニ離末ノ處土佐守正安公父

不變院殿ノ御法號ヲ長國寺ノ通號ニ改メラル然ル處久世出雲守殿御領地ニ相
ナリ本寺御改ノ故ニ據ナク房州小港誕生寺末寺トナル開基詳ナラズ

一天和二年八月十五日住職惠雄院日豪ナリ

一 不變院末山田村妙法山淨泉寺中興寛永三年以來五十七年現住淨泉坊日持

一 山地村妙信山受法寺中興以來五十八年現住慈眼坊日定

一 槇山寺檀家共受法寺預リ

一 日指山西安寺檀家共同上

一 日畑村鷲林山淨安寺中興以來年數七十八年現住立坊日恕

一 西花尻村淨泉山正法寺開基來以年數六十六年現住智圓坊日泉

一 東花尻村題號山妙傳寺中興以來年數百六十二年現住教林坊日有

一 同福壽山立成寺中興以來年數百六十二年現住本立坊日香

一 光田村中正山了性寺開基以來年數五十六年現住淨程院日悟

一 盛隆寺末古新田本覺山妙泉寺開基以來年數五十年現住蓮勝院日賢

庭瀬寺中 本高院 正善院 舊名長國山 松山寺 大垂院

妹尾寺中 善立院 安祥院 智應院 淨園院 觀行院

山田村五社大明神

一本社八尺四面 瓦葺釣殿一間ニ一間半 前殿三間ニ一間半山林東西六十五間
南北三十間ナリ山岬ニ社アリ眞言宗大内田村千手寺搦
日蓮宗妙法山淨泉寺中古ヘヨリ別ニ一社ヲ搦フ本社一間四面四方塀アリ其外
前ニ同シ山田村ノ山頂ニアリ巫女二人

同村天満宮社

一本社五尺四方社地山林東西百八間南北九十八間御免地社僧大内田村遍光山千
手院之ヲ搦ス

同村八幡宮社

一本社一間四方拜殿一間ニ二間社地山林東西六十五間南北七十九間御免地社僧
無量寺大藏坊本地阿彌陀佛

鳥羽村萬壽山報恩寺寶幢院

眞言宗安生山性徳院末寺ナリ
開山報恩大師 中興宜深僧正 嘉吉元年四月 宥元法印 宥光 宥貞 宥卯 宥
筭 宥信 宥譽 宥宜 宥伯 宥圓 宥長 宥桂 宥照 宥意 宥宣 宥觀

宥智 宥政 増海 増鏡 増深 増宥 良正 宥正 良智 宥弘 覺遷 覺道

覺本 覺明 覺正 覺成

妙見宮天神宮八幡宮勸請年月不詳此寺祝部座タリ寺院ノ勸請故ニ神体ハ佛像
多シ

一本尊阿彌陀如來三間半四面瓦葺方丈凡六間庫裏草葺三間ニ東西五間鐘樓並力
士門東西二間南北一間末寺ナシ檀家二百五十軒

一妙見宮一間四方釣殿一間ニ二間半別ニ西明院アリ草葺本堂瓦葺凡二間アリ

一天神宮一間四面釣殿一間半ニ二間前殿凡二間半鳥羽村ノ山頂松林ノ中ニアリ

一田畑一反二畝十九步高一石五斗二升三合年貢地内三百步屋敷ナリ

宜深僧正ハ古老云フ後鳥羽院ノ皇子櫻井親王ノ流即チ兒嶋五流タリ僧正五流
ヨリ出ル故ニ此地ニ後鳥羽院ノ靈塚ヲ築キ雙松ヲ栽ウ其幹益繁茂ス故ニ万壽
山報恩寺ト云々雄按スルニ報恩ハ諡ナリ其人自ラ稱セサルコト明シ報恩ハ延
暦十四年六月ニ死シテヨリ嘉吉年代マデハ數百ノ星霜ヲ經タリ此ノ間小庵ノ
故カ或ハ乱世ノ故ニ僧名モ傳ハラザルナリ報恩寺トハ蓋宜深ノ名ツケシニヤ
後鳥羽院ノ塚アルヲ以テノ故ニ天正十三年以下鳥羽ヲ以テ村名トナス

松島村五社八幡宮

一本社凡ソ二間半ニ一間釣殿二間ニ四間前殿凡ソ三間半隨身門石鳥居等アリ松嶋ノ山頂松林ノ中ニ鎮座ス古ヘ社僧ニ大圓坊アリ寛文七年還俗シテ神職トナル古老云フ釋迦藥師地藏觀音阿彌陀ヲ本地佛トナス依テ五社ト云フ其以前大圓坊天台宗タリシ時勸請ヲナス云ヘリ又二子村高島山ニアリシトモ云ヘリ大圓坊ノ趾ハ松島山ノ東頂ニアリテ島トナル今神職ハ五座ヲ伊井諾伊井冊ノ二尊及ビ應神仲哀仁徳ノ三帝トナスト雖モ中古ノ人今ノ神道ヲ知ラス佛氏ノミ專ラナル時世故ニ僧ノ勸請タル知ルヘキノミ

中庄新熊野十二社權現社

本地佛

一本尊阿彌陀 證誠殿 次千手觀音 西御前 次藥師 中御前 次十一面觀音 若王子
 无畏 次地藏 禪師宮 次龍樹 聖宮 次如意輪觀音 兒宮 次正觀音 子守 權現施
 大士 次地藏 禪師宮 次龍樹 聖宮 次如意輪觀音 兒宮 次正觀音 子守 權現施
 賢一万御前 次文珠 十万御前 次釋迦 勸請十五所 次不動 飛行夜叉 次普
 抑新熊野權現ハ文武天皇御宇役行者伊豆國ヘ流サレケル時弟子五人アリ則義學義玄義真義善玄芳ト云フ此五人ハ五流ノ先祖ナリ各山伏共朝家ヲ恨ミ奉リ評

定テ企ツト雖モ効ナシ之ニ依テ各權現ノ御神体其外寶物等取集メ船ニ乗セ奉リ備前兒嶋ヘ來リ天平寶字元年行者勸免アリ依テ同五年林村熊野山ヲ作リ補陀落山如是院ト云フ社領ハ兒嶋一圓ナリ中頃ハ近郷十七村ニ止ル應永ノ頃上野肥前守押領ス

棟札

大工藤原朝臣松田傳兵衛

延奉造立十二社權現本社一字諸民人現當二世諸願

寛永廿一年五月吉祥日

裏ニ備中國都宇郡中之庄

當社ハ寶徳中當寺先住宜深僧正ノ勸請ナリ僧正ハ備前兒島郡林村五流傳法院ノ出生ニヨリ當寺住職ノ砌氏神ヲ勸請セシナリ吉田村猪平治所持ノ由緒書ニハ權現勸請稱光九年六月又ハ永享三年共相見ユ永享三年ニ比スレハ寶徳元年ハ十一年前ナリ又稱光トハ天皇ノ尊號ニシテ應永廿八年ニ當ル寶徳元年ハ廿八年ノ相違アリ又猪平治ノ書ニハ五流ノ内智達光院灌鏡僧正報恩寺ニ隱居ノ由此人勸請ノ節世話人田邊中田別府小野林木村中嶋三船此姓右五姓子孫有之趣

二候事文政十一年正月現住信賢記

一中之庄五ヶ村ハ往古松島ノ氏子ナリ寛永年中ヨリ當社ヲ氏神トス其隨身門路
傍ニ在リシ社造宮ニ付内ノ園ヘ引遷シ敷地替リトシテ向ノ山ヲ當寺ヘ附ス

一中嶋村神子勤メ來リ証據ナシ當寺無住ノ時神子ヲ頼ミ其儘代々勤メ來ルト覺
エ又辻村神職神子ニ役相勤メ白樂市神子ニ讓リ苗跡絶ユ

性徳院寺中西院歴代

法印増秀 寛永七年六月廿一日 法印増算 全十二年十二月十日 法印増譽 慶安四年三月五日 増悦 寛文二年二月廿七日
覺心 全三年七月七日 増意 全七年七月七日 増賀 享保九年二月十日 秀賀 元文三年十月十日 増榮 寛保二年二月
日 増意 増教 増歡 實辨 増明 猶實 一實 信賢

早嶋村宮國録宮

一本社 拜殿 前殿二間ニ四間石鳥居アリ神人太田氏

妹尾古新田本覺山妙宗寺

一本覺山妙宗寺寛永十二年遷勝院日賢開基本寺妹尾盛隆寺

早嶋村安養院

同 金毘羅宮

一本社 拜殿 前殿 石鳥居等アリ神人太田氏

同村妙見社

一社地三十歩無年貢地社外壹反八畝野山宛年貢地ナリ

中庄村安生山性徳院來迎寺

當山開基報恩大師 延曆十四年六月廿一日 中興宜深僧正 嘉吉元年兒嶋林村五流
中興増伴僧正 享德元年五月五日 増勝 世五増寛 世六増暹 世七増俊 世八増實
九増祐 世十増秀 寛永七年六月廿一日 世十一増旭 寛文八年九月 世十二増龍 承應二年四月十三日 増
辨元祿四年六月十四日 増親 寶永元年九月十五日 増範 享保四年七月廿七日 増壽 全十年十月
世十七増俊 明和四年十月十八日 祐實 寶曆四年十月廿九日 世三 世廿六 世廿七 世廿八 世廿九 世三十
二年八月廿一日 實道 天明七年七月廿二日 證道 文政八年五月廿九日 世三 世廿三 世廿四 世廿五 世廿六 世廿七 世廿八 世廿九 世三十
廿五年二月廿四日 教慧 世廿二 世廿三 世廿四 世廿五 世廿六 世廿七 世廿八 世廿九 世三十
一本堂六間 一間ノ椽横四間半 庫裏樓門等アリ

安生山來迎院性徳院略縁記

一安生山來迎院者山岳峙前後海潮連續左右皇國邑聚落之富也本尊運慶作之三
尊來迎彌陀善逝也曩祖開基未知誰人 檢舊記天平勝寶年中報恩大師金山寺舊記
日指山開基後遷此以草創之

散失中興應永年中讚州與圓虛空藏院開山增畔前中二州修練之砌造營坊舍于時院主增忍傳聞增忍公上足也酌小野流以管醍醐之法藥打續其後永享年中澤知蓮光院

宜深僧正住鳥羽鄉報恩寺依信仰兒嶋十二社權現勸請之堂塔境內中之坊舍二王門等再與之頃年鯨波頻動海內不靜天下大亂當山佛閣坊舍寺領共陵廢也

右書拾集古文破本或傳聞古語為將來龜鏡綴之耳付添十二葉當住法印增親于時寬文十二壬子曆季夏上旬

御室御直末寺安生山性德院嘉永元年改帳寫左ノ如シ

一古義真言宗當住假名知本實名教惠

一寺領御朱印國印ナシ御除地壹反九畝十步御高壹石三升六合

一山林右除地內東西二十間南北三十間

一境內除地東西三十間南北十六間門前東西三十五間南北二間

一本堂當寺無之本尊運慶作阿彌陀如來客殿ニ安置ス

一鎮守十二社權現末社二社共拙寺別當右除地ノ內有之故ニ拙寺支配ス今ハ別府村辻村吉田村中田村中島村五ヶ村氏神トス末寺西ノ院へ社役申付候稻荷辨天ノ小社拙寺支配仕候

一開基報恩大師中興宜深僧正再中興增畔僧正伽藍繪旨無之
一末寺十一院末庵三ヶ所寺門額安井御門跡御筆
住坊東西三間南北二間客殿東西六間南北四間唐破風玄關庫裏東西四間南北六間土藏二ヶ所納屋二間ニ四間
一寺中西院

性德院末早島余師山醫王寺藥師院

一古義真言宗藥師院惠海御朱印國印ナシ境內東西三十間南北十二間內五畝三步五合高七斗六升八合赦免地

一本尊藥師如來 堂三間四面 釣鐘堂一字

天神宮 一座 荒神宮 一座 開基不知 末寺ナシ檀家二百五十軒住坊東西七間南北三間

一田地九畝壹步高六斗三升二合但年貢地

性德院末南明山眞光寺東雲院

一古義真言宗朱印國印堂ナシ鐘樓門壹間半ニ二間末寺ナシ古へ小庵室ノ由
本尊藥師如來 鎮守八幡宮社職小鄉大貳構開基不知檀家二百三十軒住坊南向

南北三間東西十二間屋敷東西十七間二尺南北二十三間二尺田畑九反壹畝十九步内一畝二十三步境内年貢地生坂分計目積ニテ書出ス

性徳院末徳芳村蓮光山寶福寺

一古義真言宗御朱印山林本堂共ナシ本尊藥師如來開基不知主寺ナシ檀家四十軒住坊東西五間南北三間

一鎮守天滿宮荒神宮一社一間四面氏神大河丁尾宮壹社鐘樓一字一間四面屋敷東西八間畝畑一十八步

性徳院末中帶江景光山觀音寺

一古義真言宗當住寂智 山林境内三反半高二石年貢地寺地高五斗年貢地門前東西二間南北六間

一本堂東西三間南北三間半本尊十一面觀音行基作開基不知御影堂東西一間四面鐘樓壹間半四方地藏堂二尺四方三ヶ所鎮守社東西一間半南北二間貴船明神海ノ時漁人等 檀家九十軒住坊四間半ニ三間

日指山寶泉寺

一今ハ普賢院ノ末寺古ヘハ日指山滿願坊舊地ハ日指ニ滿願田ト云フアリ後ニ寶

泉寺ト改ム天平勝寶六年報恩大師伽藍數坊造營ス本尊正觀音其後弟子津坂驛人智久大師ヲ後住トナス延曆中桓武帝ノ眼ヲ病ムヤ諸國ニ詔シテ高僧ヲ召集セシム備中ノ國司ニ詔シテ法師ヲ召サル加治ノ力ニ依テ心淨大師ノ號ヲ賜ヒ後日指山ニテ遷化ス今乙大師ノ厲ナリ其後佛殿門廡僧坊造營アリ滿願坊ハ其一ナリ今舊地ヲ滿願田ト云フ是レ寶泉寺ノ舊地ナリ天正十年高松水責ノ刻吉川小早川ノ陣所トナリ伽藍廢滅ス其後殘餘ノ寺坊戸川氏日蓮宗歸依ニテ改宗セシム寛永十三年山路村日指ノ内田某本尊觀音ヲ川ヘ流ス今讃岐志度寺ニ拾ヒテ有リト云フ當村橋築山山林及ビ境内ヲ當寺ニ施ス直書アリ高倉院嘉應元年菅原朝臣散位津阪盛英冥應集ニ載ス天平勝寶元年草創ヨリ文化十五年迄一千七十年ヲ經タリ

一阿闍梨隆海 寛文三年十月十日 同隆通延寶二年六月九日 中興大阿闍梨泉宥律師 正月十日

宥海律師 享保三年八月八日 海眞 全十年十月十日 實圓 寶曆八年八月九日 光周 九月四日 實門 十一月十一日

與順 正月二日 秀雲 九月十日 法壽 智月

南光坊神皇寺島ノ名ニ殘レリ

一本堂三間四面客殿草葺四間四方庫裏二間四方瓦葺鎮守金毘羅宮辰己向ナリ

日指山日指寺

今字ヲ寺屋敷又ムン坊藥師堂山古堂仁王堂屋敷滿願田ニヤ愛染畑ニヤ
門坊畑眞言屋敷ナド、今ニ山頂ニ礎アリ慶長年中迄堂ノミアリ日指村百姓某
寛永十三年日蓮宗ニ歸依シ本尊ヲ川ヘ流セシト云フ其頃迄ハ峯ニ西安坊多門
坊滿願坊興聖坊曼茶羅坊等殘缺ノマ、アリ然ルニ戸川肥後守日蓮宗ニ歸依シ
當時改宗ヲ嫌ヒ新開地ニ下ルト云フ寺領山林沒収セラレシニ依テ今其數ヲシ
ラズ

妙信山受法寺

舊寺名不詳開基眞珠院日領延寶七年九月廿七日寂
一吉備津縁記云吉備津冠者阿宗郷山上搆城郭中爲伊勢泄利彦命被城郭追同國
都宇郡深井土日差山東片岡取陣中冠者終戰負云々其後久松離栢々然其後報恩
大師天平勝寶六年造寺日指山號日指山云々
本堂寛永頃藥師堂今ツイシノ愛染堂今愛染畑仁王門等アリ衆徒數坊アリ慶長年
中マデ興聖坊多門坊玉藏坊淨土坊曼茶羅坊滿願坊今寶泉寺ナリ井上坊養福坊見松坊
成福坊持寶坊吉祥坊寶藏坊寶藏坊石橋坊大藏坊寶相坊西安坊今日蓮宗

天正十年高松城水責之刻毛利家大將小早川隆景公吉川元春公等陣當山伽藍於
是滅矣慶長元和之頃戸川肥後守領是地之故令改宗數坊或滅或散新開之地者
所謂八都村寶泉寺庄村興聖寺淨土坊寶性寺大内田村千手寺大藏坊宮内普賢院
山地受法寺三手村鏡善寺蓋大概如是今者山號變化而不可知其實理乎哉

今庄村ノ興聖寺ノ前ニ日指山ノ衆徒ノ寺名畑トナリテ其名存スルモノ多シ
一仁王門ハ山地村日指ニアリ是故ニ山路ヨリ古道ノ趾アリ山下ニ又岡ノ寺ト云
フ地名アリ山地村ニアリシ寺跡ナルコト顯然タリ蓋シ云フ上ノ寺ハ右十九坊
岡寺ハ神皇寺圓光坊百々寺檜山寺受法寺

或ハ云フ受法寺又日指山衆徒ニヤ同寺ノ涅槃像ハ預リノ節ヨリシテ他寺ニ讓
ラズ然ラハ則チ日指山改宗シテ受法寺トナルコト明ナリ口碑ニ妙信ト云フ厄
改宗ノ初メ故ニ妙信山ト云フ

一村民ノ口碑ニ撫川戸川侯肥後守時未進多クアリ若シ日蓮宗ニ改メバ免除スベ
シトアリ之ニ依テ改宗ス涅槃像箱裏書ニ起句磨滅涅槃箱于時天文廿壬子季月
拾日書之衆中敬白

興聖寺多聞寺玉藏寺淨土寺曼茶羅寺滿願寺井上寺養福寺見松寺成福坊豐音寺

其外俗人名三十七八人奮附タリ漢人ノ畫カ

上庄村弘福山西方院興性寺

一境内二畝御免地本尊阿彌陀如來凡一尺八寸裏書ニ云フ萬壽元年三月十五日堂一間ニ一間半本尊十王佛鎮守四尺四方熊野權現住坊東西十間半南北二間半此寺往古日指山興性坊ナリ開山報恩大師檀家二百八十軒慶長中戸川氏日蓮宗トセントスル時命ヲ受ケズ此地ニ移ルト云フ
中興舜快 明曆三年三月三日 智亮 寶曆三年三月三日 峯覺
德存 宏盤 明運 明道

下庄村法輪山蓮光院寶性寺

一境内東西十六間半南北十二間開山報恩大師本尊如意輪觀音荒神社内御除地鎮守荒神社三尺四方藥師堂九尺四方境内東西十一間南北十六間御免地此寺往古ハ日指寺ノ衆徒日蓮宗トナラズ此地ニ移ル今ハ宮内普賢院ノ末ナリ
境内二畝本尊阿彌陀鎮守荒神社二尺三寸四方開山報恩大師日指寺ノ衆徒ナリ敗寺ニ依テ當村ニ移ル住坊東西四間ニ二間

兩部山無量院淨土坊

大内田村遍光山蓮花院千手寺

一境内五畝五步御免地本尊千手觀音天滿宮社五尺四方開基報恩大師日指寺ノ衆徒ナリ嚴嶋社天滿宮五社大明神等ヲ攝ス住坊東西八間南北五間檀家二百廿軒

同村大内山無量寺大藏坊

一境内二畝廿步御免地本尊阿彌陀開山報恩大師住坊東西四間南北二間半鎮守八幡宮攝ス日指寺ノ衆徒ナリ寛永年中撫川戸川氏政宗ノ際當村ニ移ル

庄村若宮大明神及八幡宮社

一若宮大明神本地地藏尊社五尺四方同八幡宮社四尺四方拜殿前殿石鳥居等ナリ兩社地高五畝十六步半高六斗一升一合境内東西十間南北二十間
雄按スルニ上古釋氏ノ比叡山聖眞權現十碑師權現ヲ勸請スルニヤ本地弘トス
トノ主字即本地佛ナリ或若宮八幡宮ノ一社ヲ誤リテ二社トナスカ

同村岩倉宮社

一境内東西三十八間南北二十五間本社四尺四方前殿石鳥居宮寄附田一反九畝五步高二石九斗二升七合本地佛三世明王松林ニ岩多シ依リテ此名アルニヤ社僧興性寺

同村眞宮明神社

一本社三尺四方拜殿前殿石鳥居境内東西十五間南北二十三間ノ松林アリ本地毘沙門天王社僧興性寺西尾ノ氏神ナリ
天滿宮社二尺四方 荒神社二尺四方 八幡宮社二尺五寸四方各社僧興性
一本社 拜殿一間ニ二間境内山林東西六十五間南北七十九間御免地山城國男山鳩峰勸請本地阿彌陀佛事前ニ詳ラカナリ

大内田村八幡宮社

帆寄天神宮

一本社一間四方釣殿一間四面前堂一間ニ三間鐘樓一間四方四方塙アリ神田一斗五升花房氏柳原氏ヨリ寄附ス山林アレモ其畝數ヲ詳ニセズ神像凡ソ一尺束帶ノ菅公像アリ勸請年曆不詳社僧宗蓮寺宮敷地十八間四面

經王宮社

一本社 前殿 祭禮九月十三日社地加茂村ノ内長田ト云フ所ニアリ此宮河面大明神ナリ慶長十三年ヨリ花房氏領シテ神名ヲ改メ經王トナス法花經ヲ諸經ノ上ニ出ルト云フ義ニヤ社僧一乘山本隆寺此地往古新開地故畝高改慶長四年十

リ其以前開發ノ際勸請ニヤ

加茂大明神社

一本社一間四方前殿二間四方幣殿二間四方石鳥居アリ祭禮九月七日加茂津寺ノ氏神トス松林凡ソ十八九間ニ二十間ナリ往古ハ此地賀陽郡ニ屬セシ時モアリ風土記ニ云フ賀陽郡伊勢御社アリ宮ノ前ニ川アリ宮瀬川ト云フ河ノ東ハ吉備津宮ナリ拾芥抄ニハ河面郷トアリ面トハ日本紀東ノ事トス足守川ヲ古ヘハ宮瀬川ト云ヘルカ社僧日蓮宗蓮休寺長田津寺兩社何レカ内宮何レカ外宮ニヤ

郡大明神社

一加茂村ノ田中ニ小社一間四方アリ石鳥居アリ祭禮不詳蓋往古此地ノ新開主ヲ祀レルニヤ社僧當意山蓮休寺

積善寺舊跡

一眞言宗開山本尊不詳舊跡本隆寺ノ上ノ山ニアリ

新庄上村帝釋天王堂

一往古積善寺ト云ヘル寺此山ノ頂ニアリ殿堂坊舍東西ノ麓ニ樓門アリ仁王ノ像安置セリ今大門ト云フ天正十年高松陣ノ時伽藍廢亡セリ當院七祖丹林坊後本乘院

日正本隆寺在己ムコトヲ得ス社ヲ結ヒ道ニ並木ヲ移植シ鎮守トナセリ寛文十三年五月大風雨忽チ破却セリ
 帝釋王ノ像中頃風雨ニ遇ヒ剝脱セシテ寛永十九年九月着色ス
 一梵天本社水賣ノ園ニハ寺山ニ三村孫太郎陣所トアリ之ニ依テ積善寺敗滅帝釋宮モ積善寺ノ攝社ナリトソ

一 乘山本隆寺

往古積善寺ノ趾ヘ寛永年中建立
 一境内南北二丁東西二十五間本堂八間ニ四間庫裏五間半番神堂本社八尺前殿一間ニ二間關木門一間半

寺中 法泉寺本妙寺了運院本興院加茂村ニア攝所經王明神
 寺僧僞リテ日隆ヲ開山トス蓋シ日隆ハ備中ニ來リシコトナカラシ

開山日隆大聖人寛正五年二月廿五日 學五月廿八日 日清 日通 日刀 日壽 日正元祿十年七月廿日 頂承應二年 日正 日瀨 日啓 日窓 日涌 日胤 日灌 日領 日救
 日寅 日迎 日勤 日辰 日謙 日等 日紹 日全 日光

山地村生谷大明神

- 一 妙信山愛法寺攝ス其地ヲ生谷ト云フ
- 一 水土大明神社ナシ櫨木生ノ塚ヲ祀ル
- 一 内田大明神前ニ全シ
- 一 御崎大明神按スルニ吉備津宮御崎此地ニ移スカ
- 一 手水御前

同村神皇寺

一 開山本尊不詳按スルニ戸川氏改宗ノ命ニ從ハサル寺ハ或ハ外ニ移シ又廢滅スト云フ

同村百々寺及圓光坊

一 各日指寺ノ衆徒ニヤ改宗セス依テ畑トナル

日指山榎山寺同西安寺

一 檀家共ニ受法寺預リ兩寺廢滅ス

日幡村楯築大明神

一本社八尺四方山林凡ソ五六十間四方社地内一丈餘横三尺石ヲ建テ又一間程ノ石ヲ西ニ建ツ前ニ大石ヲ建ツ御神体二尺余ノ平石ニ足ノ形大指等ノ跡アリ昔

吉備津冠者岩屋嶽ヲ賣メ落シテ日指山ノ東ニ陣取リ相戦フノ節石ヲ楯ニ築テ矢ノ來ルヲフセグト云フ其時伊井泄利彦命矢ヲ取テ敵ヲ射給フノ時ノ御足ノ形トハ云ヘリ依テ其石ヲ祀リテ楯築明神ト云フ又口碑ニ社ノ東大石ノ丸キアリ其石ニ左右ニ大キナル手ノ形チアリ是冠者日指山ヨリ投ケシ石ト云ヘリ石ノ鳥居東ニ向テ凡ソ高サ一間半麓ニ牛王社アリ寛延三年ノ記ニ法泉寺搆トアリ今淨安寺攝ス

日幡村鷺林山淨安寺

一本堂住坊兼五間半ニ四方鐘樓堂一間四方不變院末寺開山城用院日相慶長十年建立

日相 日林 日定 日恕 日香 寛保三年七月 清明和九年九月 信 日住 安永八年八月 日義 日惠 日勇 日廣

山田村妙法山淨泉寺

一住坊草葺關木門アリ本寺不變院開山不詳中興開山寛永三年造立天和二年住持日持五社大明神ノ社僧ナリ

加茂村法意山蓮休寺

一本堂長六間半ニ横四間半庫裏五間半ニ三間半香神堂一間半四方表門一ヶ所開山寶積院日永境内五百廿坪東西廿五間南北十七間除地二百四坪年貢地三百十六坪檀家百七軒搆所加茂大明神郡大明神一間四方石鳥居アリ

岩崎不動

一寛政年間和泉國ノ石工某不動ノ形ヲ彫刻セリ今ハ誤テ岩崎山ヲ不動嶽トセリ

都宇山宗蓮寺

一本堂六間半横四間半庫裏四間横七間香神堂一間四面門境内四百六十坪東西廿三間南北廿間除地二百五十坪年貢地二百十坪

矢部村鯉喰御崎宮社

一本社一間四面本地不動尊毘沙門天王或云愛染尊ノ主字モ書クノ由ナリ慶長年間本社造營其後寶永元年再營天保十三年三造營釣屋一間半ニ二間瓦葺一間半ニ四間半前殿一間四方鐘樓堂隨身門二間ニ一間社僧日指山寶泉寺社司多田氏祭禮九月申酉ノ日

吉備津宮縁記曰深井土日指山東片岡冠者陣中冠者戰負成鯉隱云々延長元年記云宮内西南有夜目山尊臣夜目丸在此防夜行惡鬼今云矢部矢又云鬼神通力既

衰成ニ鯉魚ニ隱也尊乍作鷓而喰揚給此處社建而奉崇鯉喰宮一宮分身神也按スルニ此宮ハ命ノ臣夜目丸ナル者吉備津冠者退治ノ功ニ依テ此深井土郷ヲ賜ハルト云フ始メ吉備津冠者水中ニ隱ルコト鯉魚ノ如シ夜目丸又鷓鳥ノ如ク急ニ來リテ水中ニ於テ冠者ヲ生捕ル依テ之ヲ祀リテ鯉喰御崎宮ト云フ

撫川村正八幡宮

一社僧法正山信城寺本社一間四面前殿一間ニ三間釣殿一間半ニ二間山林凡ソ東西十間余南北二十四五間余アリ勸請年曆知レヌ蓋シ新開以後ノ宮ナルカ鐘堂一間四方石鳥居アリ

同村疫神宮

一祭神祇園宮社僧金花山極樂寺觀音院本社一間四方前殿一間半ニ三間釣屋一間半ニ三間瓦葺鐘堂一間四方石鳥居アリ境内塀アリ山林凡ソ東西十二間南北三十二間社南向蓋シ後世ノ勸請ナラン領主餘地

納所村御崎宮

一本社一間四方前殿二間ニ三間釣殿一間ニ一間半石鳥居隨身門一間半間口山林境内凡ソ十間ニ十五間社司宮内村吉備津神人

撫川三十社

金光山極樂寺觀音院

一境内東西二十間南北十八間領主餘地本尊觀音堂二間四方住坊四間ニ七間鎮守愛宕權現二尺四方開基不知普賢院末寺ナリ

明治卅年五月二十二日印刷
明治卅年五月二十八日發行

非賣品

著者 故人 小早川秀雄

岡山縣邑久郡朝日村五十番邸

發行者 小橋藻左衛

岡山縣和氣郡片上村百拾三番邸

發行者 野吹秀太郎

岡山縣和氣郡熊山村拾三番邸

發行者 南為吾

岡山縣岡山市大字築町廿壹番邸

印刷者 吉田朔七

岡山縣岡山市上之町百拾壹番邸

印刷所 吉田書局 岡山活版所

